

ナカメ未来ビジョン

(DRAFT版)

ナカメ未来ビジョンの構成

1章 はじめに	1	背景と目的
	2	対象エリア
	3	ビジョンの位置付けと期間
2章 ナカメの将来に向けたまちづくりの方向性	1	ナカメの将来像
	2	ナカメの魅力
	3	まちづくりの方向性
	4	まちづくり方針図
3章 まちづくりの目標と方針	1	ウォークアブルネットワーク
	2	まちなか拠点
	3	インクルーシブなまち
	4	クリエイティブなまち
	5	情報や技術が活きるまち
4章 取組事例		
5章 今後の展開と推進体制	1	リーディングプロジェクト
	2	ロードマップ
	3	体系図
	4	推進体制
参考資料－ 1. ナカメのこれまでの歩み		
参考資料－ 2. ナカメを取り巻く社会状況		
参考資料－ 3. ナカメの状況	1	人口・来訪者
	2	産業
	3	環境・施設立地
	4	土地・建物
	5	都市基盤
	6	まちづくり活動・コミュニティ
参考資料－ 4. ナカメにおける課題の抽出(SWOT分析)		
コラム	1	目黒川道プロジェクト
	2	東京都市大学による未来ビジョン策定に向けた提案
用語集		

1 背景と目的

まちの変化

- 中目黒駅周辺地区は、駅を中心とした利便性の高いエリアであり、多くの人々が暮らし、訪れるまちです。目黒川や沿川の桜などの自然、公園や街路樹などの豊かなみどり、暮らしに寄り添う商店街、個性のある店舗、先進的な取組を行うコンセプト店舗など、多様な魅力をもつ人気のエリアとなっています。
- 近年では、東京音楽大学中目黒・代官山キャンパスの開校や東京地方裁判所・中目黒分室の開設など、様々なまちの変化がみられます。さらに、市街地再開発事業の検討やグローバルスタートアップキャンパス構想のフラッグシップ拠点（以下、GSUC構想のフラッグシップ拠点）に基づく施設整備など、新たな動きも出てきています。
- このような中で、エリアの魅力を守り・伸ばしながら、まちの変化に合わせたまちづくりに取り組むことが必要になっています。



【中目黒駅周辺地区】



【目黒川船入場の利活用】

公民連携まちづくりの機運の高まり

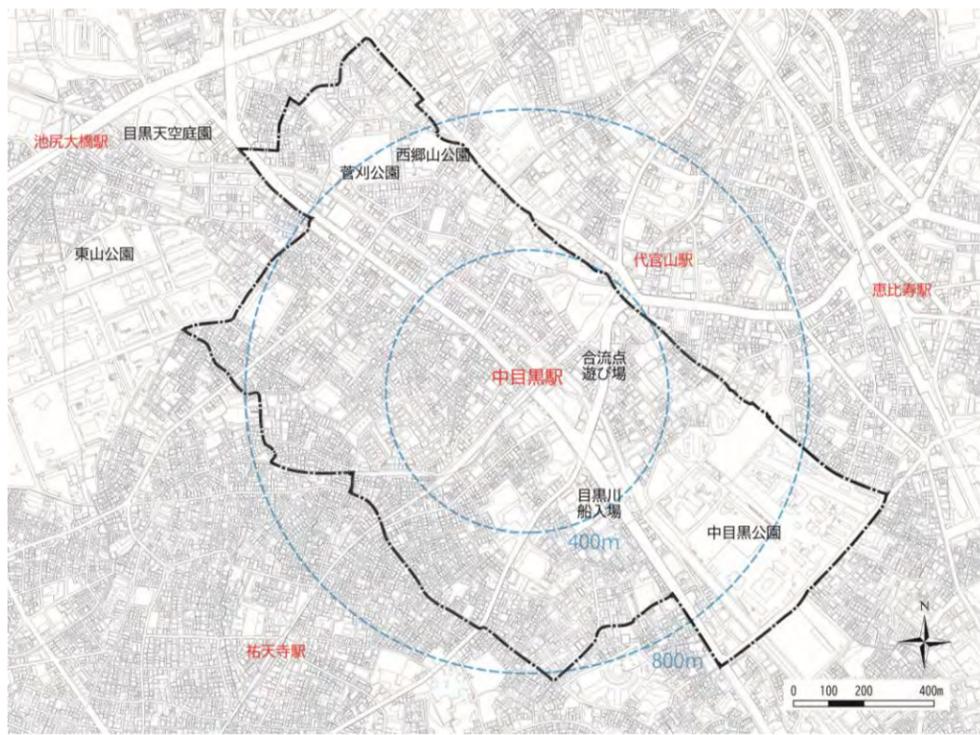
- 中目黒駅周辺地区では、目黒区による「中目黒駅周辺地区整備計画」の改定を契機に、中目黒駅周辺地区街づくり協議会(以下、「街づくり協議会」という。)と目黒区を中心とした公民連携によるまちづくり活動が活発に展開されています。
- 令和2(2020)年10月には一般社団法人中目黒駅周辺地区エリアマネジメント(以下、「ナカメエリアマネジメント」という。)が街づくり協議会の実行組織として設立され、目黒川船入場の利活用をはじめとするエリア内でのまちづくり活動を実施しています。
- 今後は、エリアの変化を捉えながら、公民連携まちづくりをさらに加速していくことが期待されます。

未来ビジョン策定の目的

- まちの変化や公民連携まちづくりの進展を踏まえ、将来に向けたまちづくりの方針と具体的な取組を明確にするとともに、多様な人材が参画・連携して取り組むことを目的として、未来ビジョンを策定します。
- 未来ビジョンの名称は、これまで地域に親しまれてきた愛称である「ナカメ」を使い「ナカメ未来ビジョン」とすることで、「ナカメ」に関わる・関わりたい多くの人と一緒に未来の「ナカメ」を育てていくことを目指します。
- 「ナカメ未来ビジョン」は、ナカメエリアマネジメントと目黒区を中心として多様な人材が参加するエリアプラットフォーム（ナカメをデザインする会議。）が策定します。

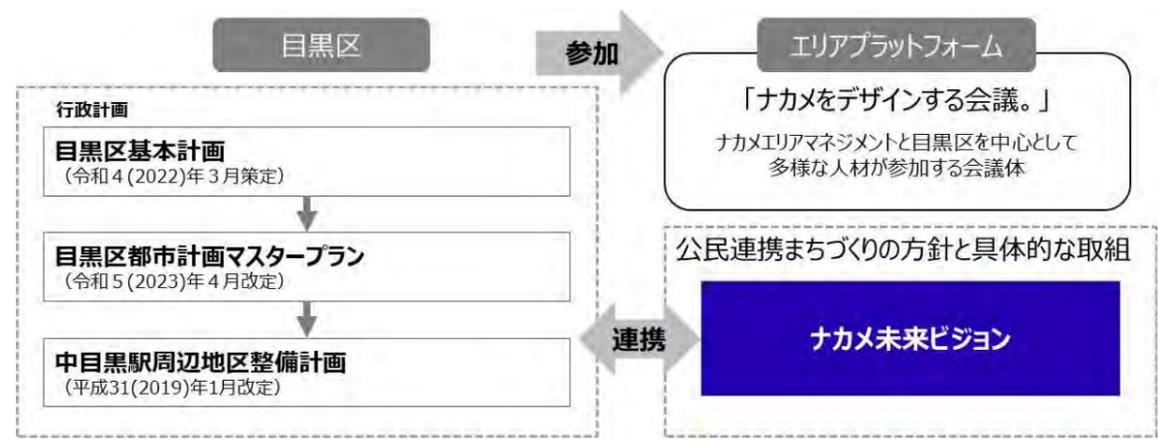
2 対象エリア

- ナカメ未来ビジョンの対象エリアは、中目黒駅を中心に、公共空間や店舗を徒歩・車いす又は自転車等で回遊することを想定して、概ね半径800mの範囲とします。
- ナカメ未来ビジョンでは、対象エリアを「ナカメ」と呼びます。



3 ビジョンの位置付けと期間

- ナカメに関わる方々が取り組むビジョンであることから、策定時点では実現が困難であったり、調整・協議が図られていない内容も含まれています。「ナカメ未来ビジョン」をきっかけに、一人でも多くの方がナカメに関心と関わりを持ち、将来のナカメの姿について夢を語り、その実現に向けてトライ＆エラーを重ねながらまちを育てていくことで、「自分たちのまち」と思えるナカメを目指していきます。
- ビジョンには、目黒区が行う取組も含まれるため、「目黒区基本計画」、「目黒区都市計画マスタープラン」、「中目黒駅周辺地区整備計画」を踏まえながら、実施期間を約20年間と想定する将来構想とします。

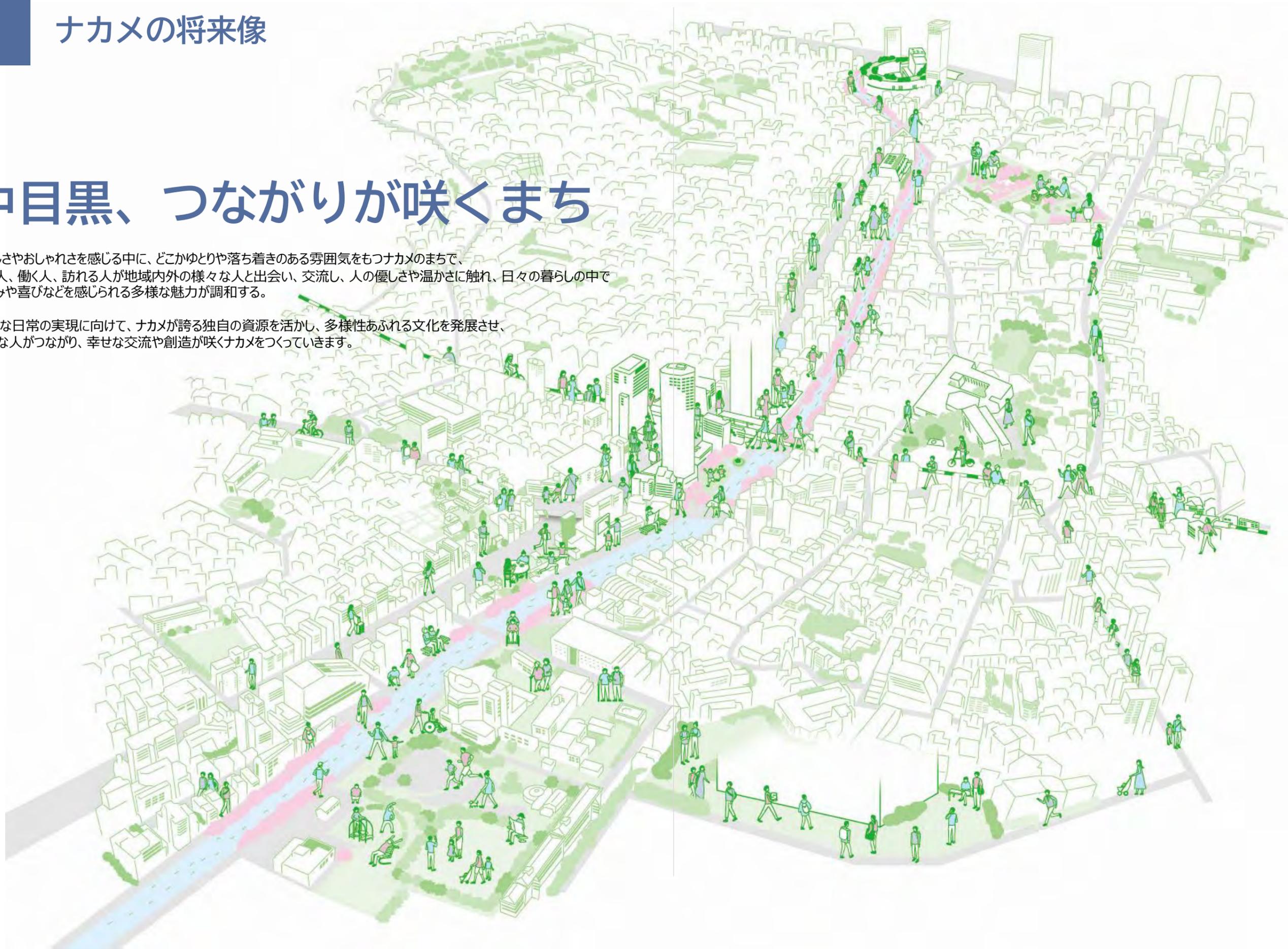


1 ナカメの将来像

中目黒、つながりが咲くまち

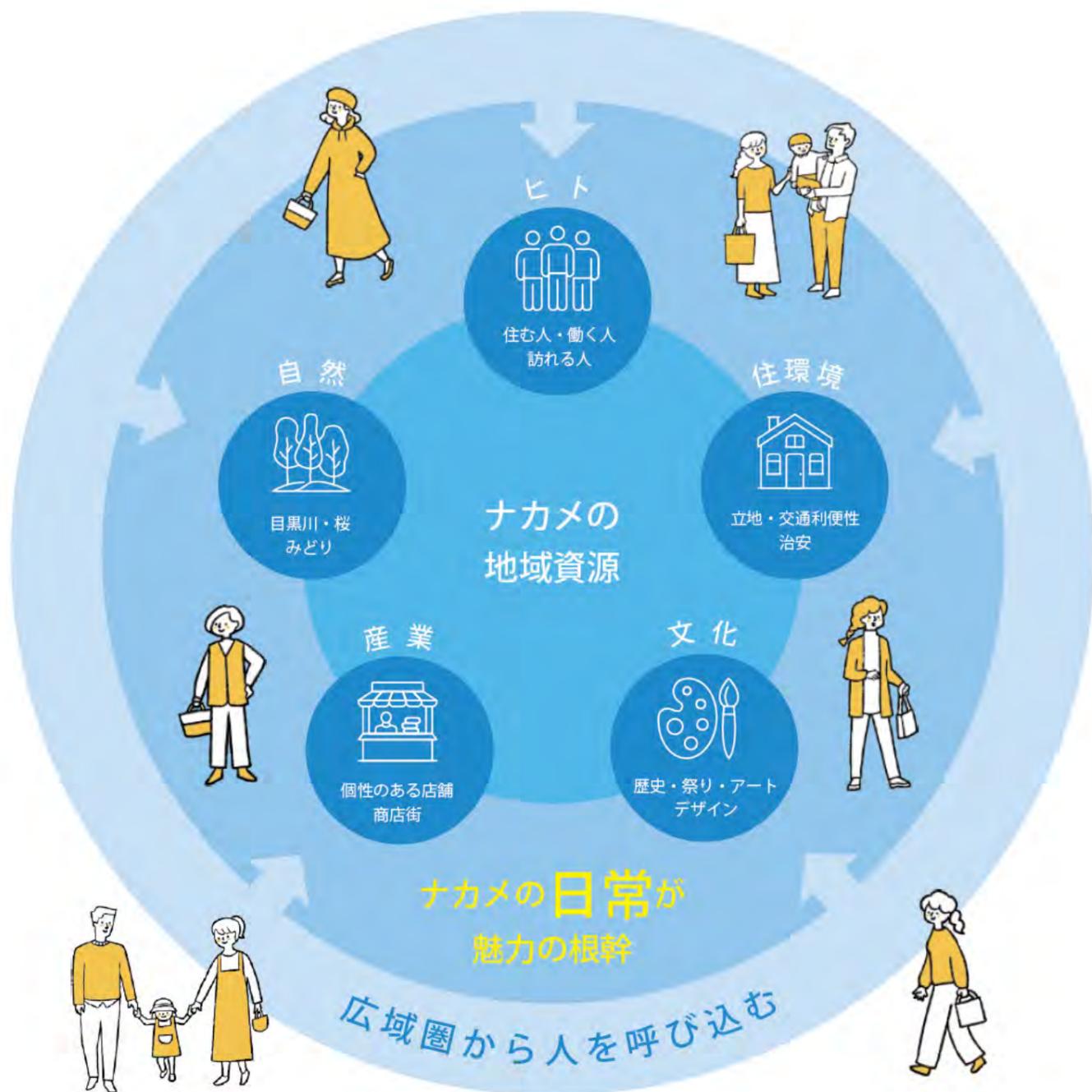
新しさやおしゃれさを感じる中に、どこかゆとりや落ち着きのある雰囲気をもつナカメのまちで、住む人、働く人、訪れる人が地域内外の様々な人と出会い、交流し、人の優しさや温かさに触れ、日々の暮らしの中で楽しみや喜びなどを感じられる多様な魅力が調和する。

そんな日常の実現に向けて、ナカメが誇る独自の資源を活かし、多様性あふれる文化を発展させ、様々な人がつながり、幸せな交流や創造が咲くナカメをつくっていきます。



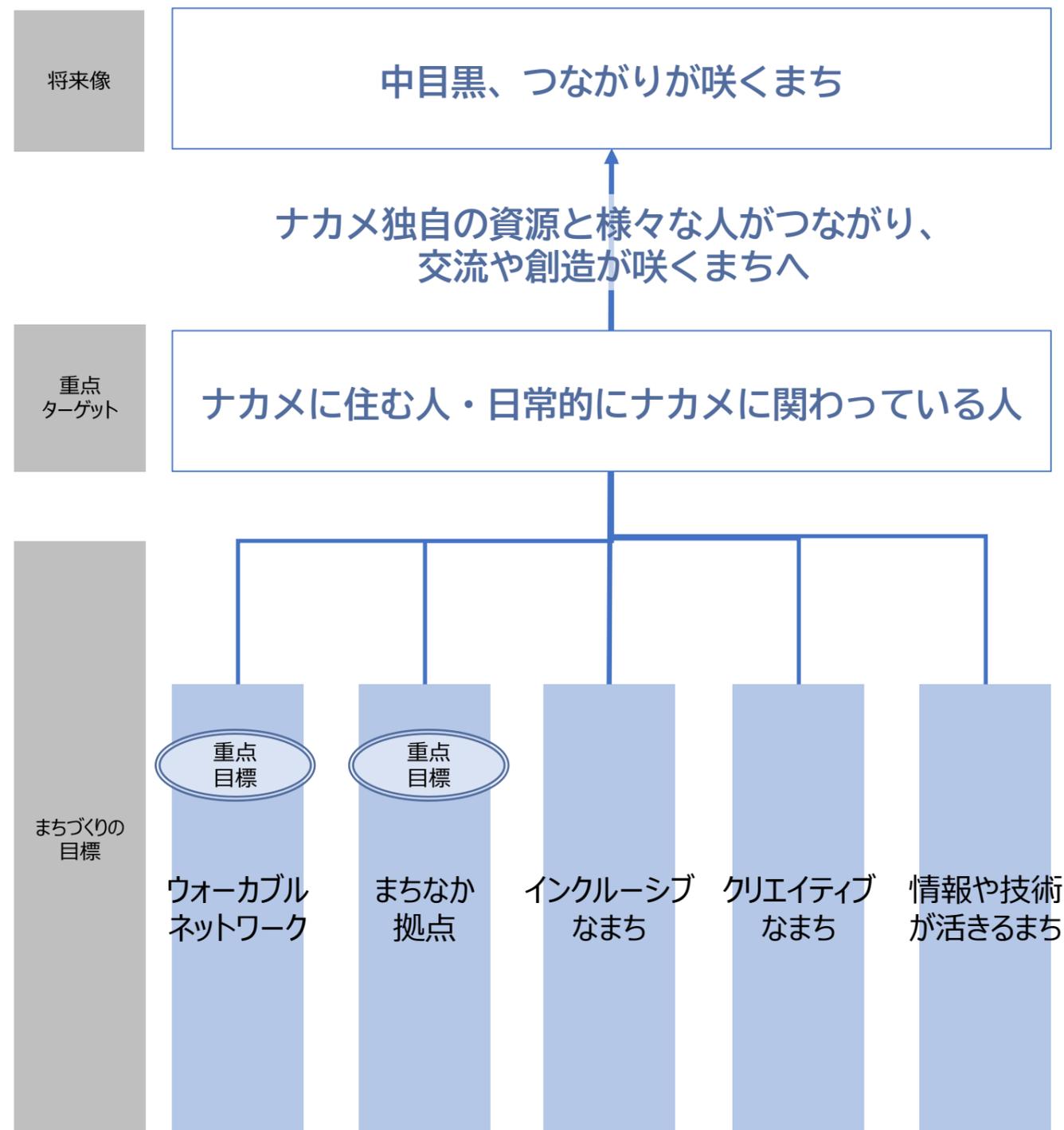
2 ナカメの魅力

- ナカメには多様な地域資源があり、その魅力が多くの人々を惹きつけ、ナカメらしい落ち着きや心地よい賑わい、クリエイティブな感性を刺激する雰囲気や環境を生み出しています。
- このナカメの「日常」こそ、まちの魅力の根幹であると考えられ、それがブランド力となり、広域圏からも人を呼び込むことに繋がっていると考えられます。
- これらを踏まえて、将来に向けたまちづくりを進めることが求められています。



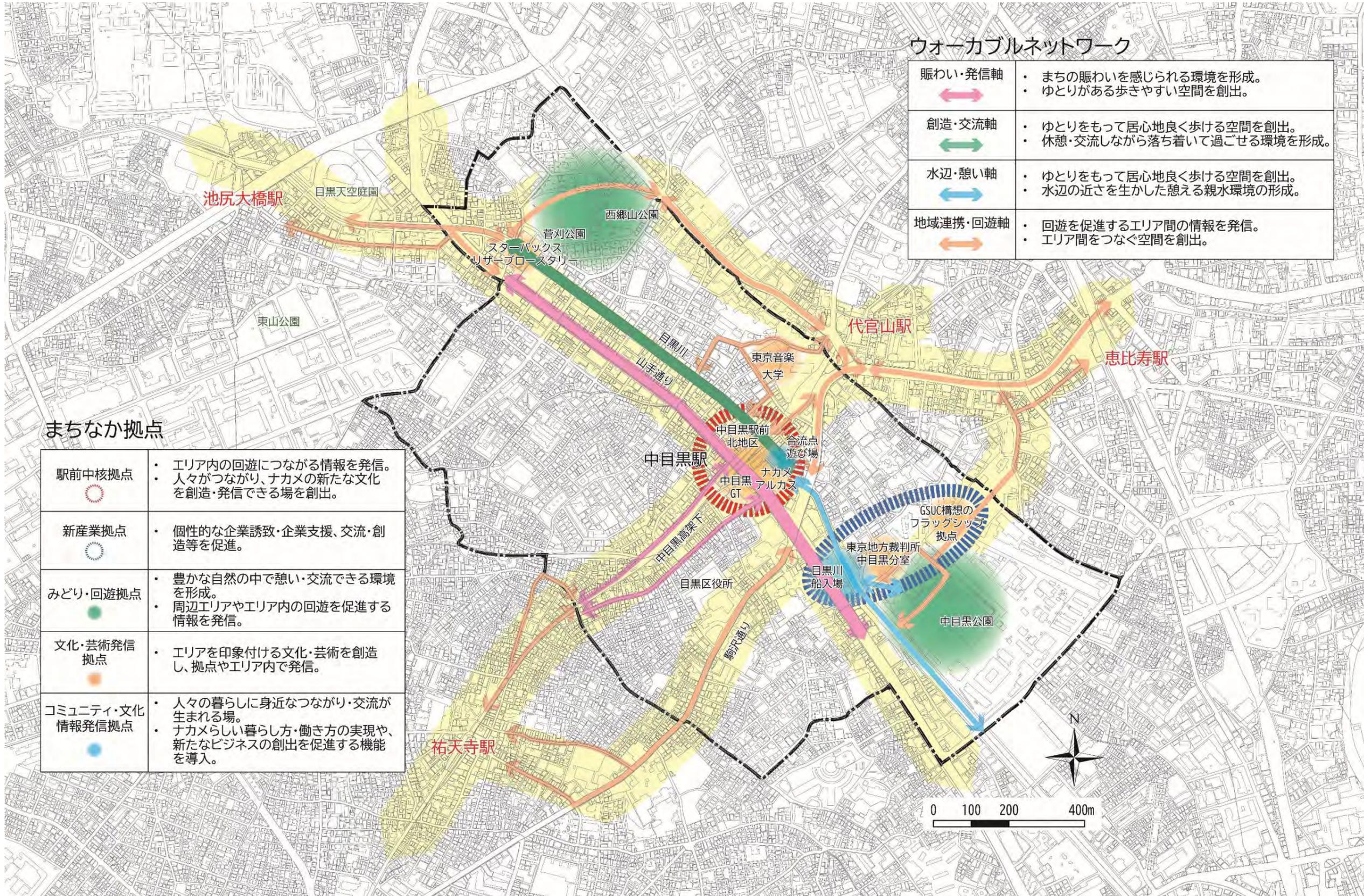
2 まちづくりの方向性

- ナカメの魅力を踏まえて、「ナカメに住む人・日常的にナカメに関わっている人」を重点ターゲットとして、ナカメ独自の資源を活かし多様な文化を発展させるとともに、様々な人がつながり、交流・創造するまちづくりの方向性として、以下、5つの目標を掲げます。
- このうち、ナカメのまちなかを歩いて巡りたくなるようにエリア内外の魅力をつなぐ「ウォークブルネットワーク」と、ひとやまちの魅力に出会える拠点をつくる「まちなか拠点」を、「重点目標」として位置付けます。



4

まちづくり方針図



1

【歩行環境・動線】

ウォーカブルネットワーク

歩いて巡りたくなるようにナカメ内外の魅力をつなぐ

散歩などまち歩きを楽しめるナカメの魅力をさらに引き出し、エリア内のまちなか拠点や隣接する池尻大橋や代官山、祐天寺等の駅周辺スポットを、歩いて巡りたくなるようにするために、「ウォーカブルネットワーク」の構築を目指します。

方針

1

歩行者ファーストのゆとりのある環境の創出

人々がゆったりとまち歩きを楽しめるように、歩行空間の充実、回遊路の連続性の確保により、ゆとりのある歩行環境を創出します。

【取組】

- ① イベント等使用形態に合わせた道路の歩行者優先道路化
- ② 建物の共同化に伴う道路の歩行者優先道路化や民地空間と一体的な空間整備
- ③ 路外駐車場出入口の設置制限や集約駐車場の設置
- ④ 歩道橋周辺の安全確保等の検討等歩行空間のバリアフリー化

方針

2

歩行空間の魅力向上

人々が交流や散歩を楽しめる歩行空間になるように、商店街の店舗等の連続性確保、滞留空間の確保や外観の透過・デザイン、緑道やみどりの散歩道の充実により、魅力を向上します。

【取組】

- ① 商店街におけるまちづくりルールによる低層部の店舗等の誘導
- ② 沿道店舗のセットバックによるオープンスペースの確保と活用促進
- ③ 建物1階のガラス張り化
- ④ 既存建物の外観を活かしたリノベーション
- ⑤ みどりの散歩道や緑道などベンチ等の整備・舗装や照明などの改修
- ⑥ ベンチの設置・改修
- ⑦ 接道部等の緑化の促進

方針

3

憩い・くつろげる環境の確保

人々が気ままに立ち止まったり、休憩したりするなど、誰もが身体の負担やストレスを感じることなくまち歩きを楽しむことができるように、座れる場の設置や緑化促進により、憩い・くつろげる環境を確保します。

【取組】

- ① みどりの散歩道や緑道等のベンチ・パーゴラの設置や改修
- ② オープンテラスの設置
- ③ 質の良いトイレの設置・改修
- ④ 地域のボランティア等による緑化



方針

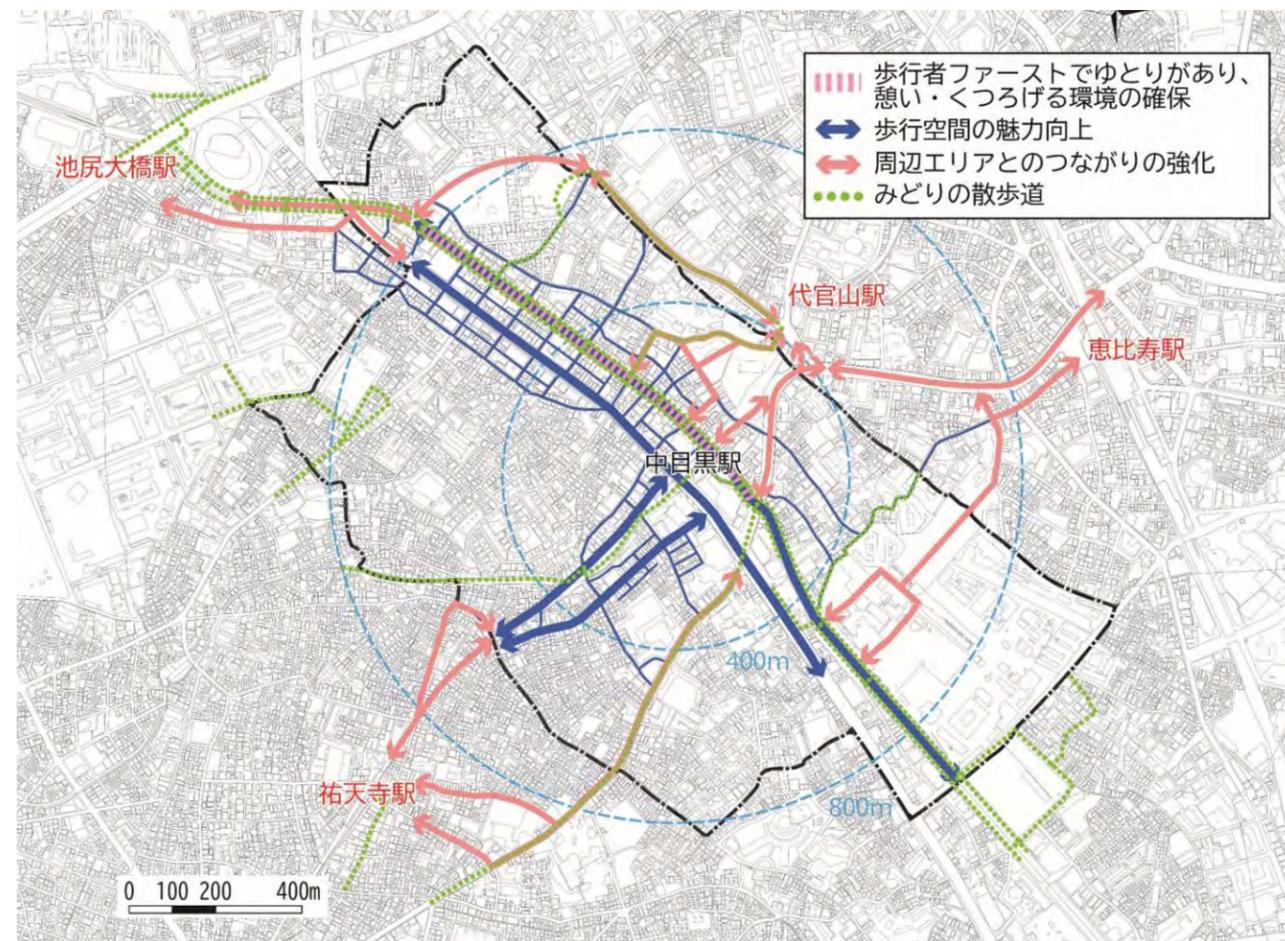
4

周辺エリアとのつながりの強化

ナカメと隣接する池尻大橋や、代官山、祐天寺等との回遊を促進できるように、誘導するための環境整備や情報発信、活動の連携、移動手段の確保により、周辺エリアとのつながりを強化します。

【取組】

- ① 歩行者向けサインや案内板等の整備、改修や拡充
- ② ライトアップや壁面ペイント等による誘導
- ③ イベント等の協同開催
- ④ シェアモビリティの活用
- ⑤ GSUC構想のフラッグシップ拠点への回遊路の推進



2

【場・空間】
まちなか拠点

ひとやまちの魅力に出会える拠点をつくる

ひとや自然、文化などのナカメにある様々な魅力に出会えることで、住む人・働く人・訪れる人の日常を豊かにし、「住みたい」、「住み続けたい」、「働きたい」、「訪れたい」と思えるナカメにするために、エリア内の空間を活用して、人々の滞留や回遊、憩い、交流を生み出す「まちなか拠点」づくりを目指します。

方針

1

駅周辺での滞留・回遊を生み出す場の創出

エリアの顔である中目黒駅の周辺において、人々が滞留し、エリア内の情報を知ることができ、回遊につながるように、建物の更新等を契機とした場の創出を行います。

【取組】

- ① 民有地と公共空間の一体的な舗装等による新たな広場空間の創出
- ② 道路空間のオープンスペース化
- ③ 交通結節点としての駅とまちとの連携強化による回遊性の向上

方針

2

魅力あふれる水辺の整備と利活用

めぐろを代表する目黒川に隣接する広場等が、水辺を身近に感じさせる魅力あふれる場となるように、整備と利活用を図ります。

【取組】

- ① 河川広場・空間におけるテーブル・ベンチの設置、芝生等による緑化
- ② 河川広場のイベント等での利活用
- ③ 質の良いトイレの設置・改修
- ④ 河川看板の整備、改修

方針

3

民間のオープンスペース等の憩いや交流の場としての利活用

ナカメには民間施設や大学等のオープンスペースが存在することから、それらを日常的に住み人・働く人・訪れる人が憩い・交流できる場になるように、積極的に活用します。

【取組】

- ① オープンスペースへのテーブル・ベンチの設置
- ② 施設のイベント等でのオープンスペースの活用の促進



方針

4

公園の新たな憩い・交流・回遊を生み出す場としての充実

エリアに立地する規模の大きな公園を、新たな憩い・賑わいの創出の場や周辺エリアとの回遊の起点・経由地点として、施設・設備の更新を行います。

【取組】

- ① 民間活力を活用した施設・設備の改修
- ② 新たな利便施設（カフェ等）の設置
- ③ トイレの質の向上、ベンチの設置や改修
- ④ 公園等の看板の整備・改修
- ⑤ みどりの散歩道ガイドブック等の更新、販売、周知

方針

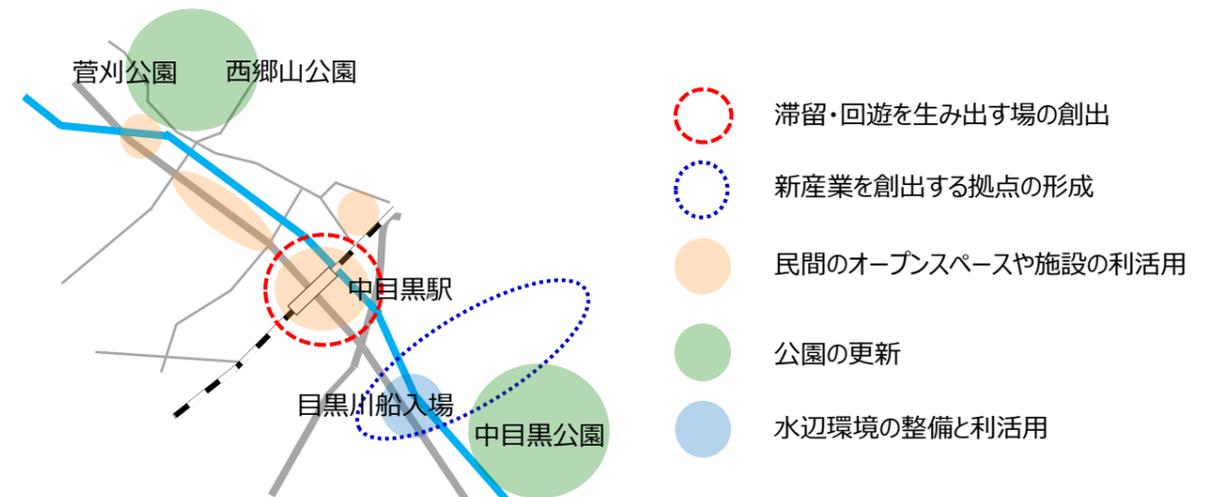
5

個性的な新産業を創出する拠点の形成

ナカメに集まるクリエイティブ企業の集積をはじめ、GSUC構想に基づくフラッグシップ拠点、フナイリバタテモノのスタートアップ拠点、知的財産高等裁判所の立地等を契機として、個性的な新産業を創出する拠点を形成します。

【取組】

- ① 新たなビジネスを創出する交流・創造の場の確保
- ② オープンイノベーション拠点の形成



3

【環境、安全・安心】

インクルーシブなまち

ひとにやさしく安心できるまちをつくる

ナカメは、都市としての活力と落ち着きの共存がまちの魅力となっており、子ども、若者、高齢者、障がい者、外国人など多様な人々が住み、働き、訪れています。そうした多様な人々が関わるまちのバランスを保ち、魅力を維持・向上するため、ひとにやさしく、安心でき、多様性を認め合いながらすべてを包み込むとともに、魅力ある個性を放つことができる「インクルーシブなまち」を目指します。

方針

1

まちなかの身近なみどりの保全と充実

目黒川沿いの桜をはじめ、ナカメのまちなかにある身近なみどりについて、地域の関係者と連携しながら、環境保全や植栽の充実により、その魅力を維持・向上します。

【
取
組
】

- ①地域の関係者が一体となった清掃活動の実施
- ②サクラ再生実行計画をもとに、地域のデザイナー等との協働も見据えた目黒川沿道の低木をはじめとした樹木の植え替え
- ③グリーンクラブや地元小中高等学校等ボランティアの育成・立上げや連携による植栽の充実
- ④みどりの散歩道や緑道などの緑化や植栽の更新

方針

2

桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実現

桜の開花時期に、地域一体となった警備やゴミの発生抑制・回収を通じた課題の解決により、様々な人が心地よく桜の開花を楽しめる環境づくり「サステナブルツーリズム」を実現します。

【
取
組
】

- ①地域の関係者が一体となったまちなかの巡回・巡視等の強化
- ②情報発信や案内等による駒沢通り以南方向への回遊の誘導
- ③制度化も見据えたりユースカップ活用によるプラゴミ削減の推進
- ④店舗等との連携によるゴミの回収
- ⑤質の良いトイレの設置・改修

方針

3

落ち着きのある景観や環境の保全

住環境と商業・業務環境が共存するナカメの特徴を踏まえた、ルールづくりやマナー啓発活動、無電柱化等により、落ち着きのある景観や環境を守ります。

【
取
組
】

- ①景観形成のルールづくり
- ②置き看板の解消(ルールの徹底、デジタルサイネージの活用等)
- ③自転車等の駐輪・走行マナーの周知
- ④放置自転車の撤去
- ⑤周辺権利者と連携した無電柱化の推進



方針

4

災害時の対策・受入態勢の強化

空間確保やデジタル技術等も活用した情報提供・誘導により、高齢者や障がい者、外国人など様々な人に配慮した災害時の対策・受入態勢を強化します。

【
取
組
】

- ①駅前における帰宅困難者の滞留空間の確保
- ②デジタルサイネージやフリーWi-Fiなどの災害時の情報発信
- ③駅周辺の事業者や関係団体等と連携した帰宅困難者対策の推進
- ④店舗・事業所での防災備蓄の誘導
- ⑤誘導案内や備えのための訓練実施

方針

5

ナカメで暮らす人々に優しく安心して暮らせる環境の充実

子どもがのびのびと活動・体験できる場の確保や、高齢者等が楽しく生活できるサービスや機会の提供などにより、ナカメに暮らす人々に優しく、安心して暮らせる環境の充実を図ります。

【
取
組
】

- ①まちなか拠点の活用を通じた安心して活動・体験できる場や機会の創出
- ②生活支援サービス(買い物支援など)の実施
- ③歩道橋周辺の安全確保等の検討等歩行空間のバリアフリー化

方針

6

多様な人々が安心して楽しく過ごせる環境の充実

ナカメでは、今後より一層、外国人をはじめ多様な人々が訪れ過ごす場になると考えられることから、目的地までの情報の提供、移動しやすい環境整備など、インバウンドも意識した安心して楽しく過ごせる環境を充実します。

【
取
組
】

- ①外国人等のための案内・相談場所の設置、国際交流の機会創出
- ②道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザインによる誘導・案内施設の設置

4

【産業、文化、コミュニティ】 クリエイティブなまち

多様な活動とつながりから活力が生まれるまちをつくる

日々の暮らしに寄り添う店舗、先進的な文化を発信する店舗や施設が共存し、多様な人々が交流する機会のあるナカメの特徴を魅力として維持・向上するため、「これまで」を継承し、「これから」を創出することで、多様な活動とつながりから活力が生まれる「クリエイティブなまち」を目指します。

方針

1

店舗・施設の集積・定着の誘導

住む人・働く人・訪れる人にとって魅力となる商業・業務機能を維持・向上できるように、建物や公共施設等の更新、既存建物の有効活用により、店舗・施設の集積・定着を誘導します。

【
取
組
】

- ①市街地再開発事業や公共空間の更新とあわせた店舗・施設の立地誘導
- ②既存建物の店舗・施設へのリノベーション

方針

2

ナカメの資源を活かした商品・サービス開発の促進

ナカメに関わる事業者・クリエイター・デザイナーなど主体が個性を発揮して、ナカメ独自の価値を創造できるように、各主体間の連携や地域資源を活用した商品・サービス開発を促進します。

【
取
組
】

- ①ナカメに関わる事業者等の連携による商品・サービス開発
- ②地域団体やボランティア間の連携による商品開発

方針

3

まちなかで文化・芸術の発信

東京音楽大学が立地するとともに、クリエイター・デザイナーが多いナカメの魅力を活かすために、まちなかの空間等を活用した活動により、日常的にナカメの文化・芸術を発信します。

【
取
組
】

- ①広場やオープンスペースでの音楽演奏、イベント
- ②アーティスト・クリエイター・デザイナーのまちなかでの活動
(創作活動、作品展示、公園等でのインスタレーションなど)
- ③東京音楽大学との連携・協力による音楽文化、音楽教育、生涯学習、
地域コミュニティ、防災対策等の取組の実施



方針

4

文化や芸術を学び・体験できる場の創出

ナカメの文化や芸術に関する多彩な感性を育むために、まちなかの施設や広場等を活用して、文化や芸術を学んだり体験したりできる場を創出します。

【
取
組
】

- ①まちなかの施設等を活用した音楽等文化・芸術教室の開催
- ②まちなか拠点の活用を通じた安心して活動・体験できる場や機会の創出(再掲)
- ③地元企業やクリエイターによる業務紹介やワークショップの開催

方針

5

世代を超えて多様な人々が出会い・つながる場や機会の創出

住む人、働く人、訪れる人、若者、子育て世代、高齢者、障がい者、外国人など、多様な人々が交流したり、まちづくり活動に参加したりできるように、人々が出会い・つながる場や機会を創出します。

【
取
組
】

- ①町会・住区住民会議・商店会等と連携した活動の実施
- ②店舗等と連携したタウンミーティングの開催
- ③音楽等の文化や地域資源を活かしたコミュニティベースツーリズムの実施

方針

6

個性的な新産業や多様な働き方・チャレンジできる環境の創出

ナカメに集まるクリエイティブ企業の集積をはじめ、スタートアップ拠点、裁判所の立地等を契機として、ナカメの魅力を高める個性的な新産業や自由に働きチャレンジできる環境を創出します。

【
取
組
】

- ①先進技術やデザインを展開する企業の誘致、起業の支援
- ②既存施設利活用を通じたコワーキングスペース・シェアオフィスの整備・拡充
- ③新たなビジネスを創出する交流・創造機能の拡充、大学との共同研究の実施

【情報、デジタル】

5 情報や技術が活きるまち

暮らしを豊かにする情報発信やデジタル技術活用を展開する

住む人・働く人・訪れる人が、まちの魅力や必要な情報を知ることができるとともに、様々な人と活動したり、ナカメで過ごすうえで便利になるサービスを利用できるようにするため、「情報発信やデジタル技術が活きるまち」を目指します。

方針

1

駅前エリアでの情報発信機能の強化

ナカメの玄関口となる駅前エリアで、ナカメの回遊や活動の促進につながる情報を提供できるように、建物の更新や店舗・施設等との連携を通じて、情報発信機能を強化します。

【
取
組
】

- ①市街地再開発事業等を通じた情報発信システム(デジタルサイネージ等)の導入
- ②駅前の店舗・施設と連携した情報発信拠点の設置・拡充

方針

2

まちの魅力を発信してつながりを生むメディアづくり

住む人・働く人・訪れる人など様々な人が、ナカメの魅力を発見・再発見して、まちへの愛着や様々なつながりをもつことができるように、ナカメ独自のメディア(情報媒体)づくりを実施します。

【
取
組
】

- ①ローカルメディアの制作・公開
- ②既存メディアとの連携・連動
- ③まちづくり活動の情報発信

方針

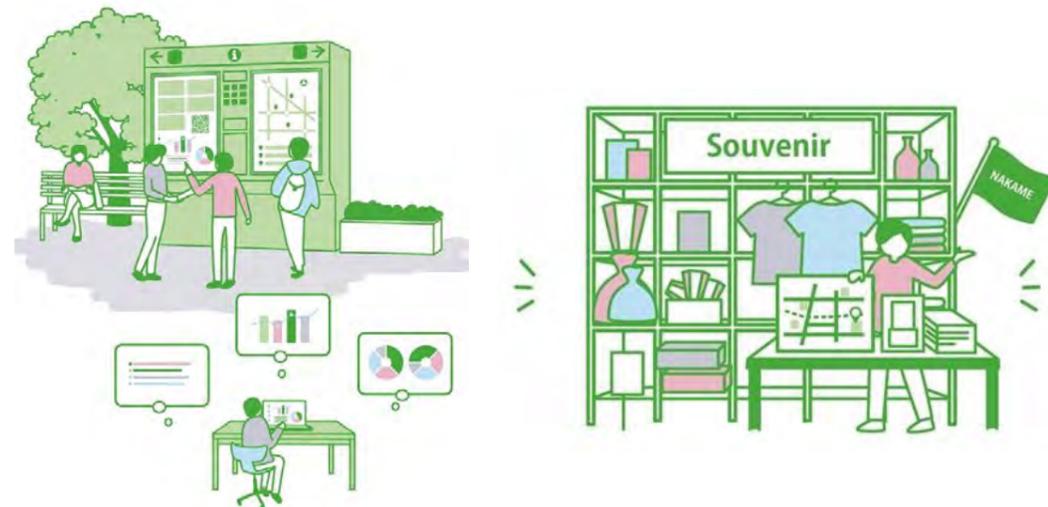
3

まちづくり活動にデジタル技術の活用

ナカメのまちづくり活動に興味・関心のある様々な人が、それぞれの望む関わり方でまちづくり活動に参加できるように、SNSやオンラインツールなどのデジタル技術を活用します。

【
取
組
】

- ①SNS等を活用した情報発信
- ②オンラインツールを活用した意見交換・活動参加の機会創出
- ③ビッグデータを活用した商業振興施策等の推進



方針

4

まちなかでデジタル技術を実装できる環境づくり

まちの状況の可視化や活動の効果検証、移動等のサービスの利便性向上や効率化など、まちの魅力向上や課題解決につながるデジタル技術を実装に向けて、環境を整備します。

【
取
組
】

- ①人流把握や防犯等のためのAIカメラやセンサー等の設置
- ②VR等の活用によるまちづくりの検討
- ③まちづくり活動の効果検証のための収集したデータの分析
- ④地域のニーズに応じた次世代モビリティの導入
- ⑤AIを活用した音声ガイド案内板の設置



4章 取組事例

- ナカメでは、まちづくりの目標に掲げる方針に関する取組をナカメエリアマネジメントや目黒区が中心となりながら、公民連携で推進しています。
- これらの取組を、将来目指すナカメの姿を実現するための取組の「芽」として推進していきます。

1 「ウォーカブルネットワーク」 歩いて巡りたくなるようにナカメ内外の魅力をつなぐ



【目黒川沿いの区道の歩行者優先道路化】



【店舗でのオープンスペースの確保・ガラス張り化】

2 「まちなか拠点」 ひとやまちの魅力に出会える拠点をつくる



【目黒川船入場でのキッチンカー出店】



【区立合流点遊び場でのイベント開催】

3 「インクルーシブなまち」 ひとにやさしく安心できるまちをつくる



【地域の関係者で取り組む清掃活動】



【桜開花時期の課題解決】



【子どもの活動・体験の場づくり】

4 「クリエイティブなまち」 多様な活動とつながりから活力が生まれるまちをつくる



【旧川の資料館を活用したコワーキングスペースの開設】



【公共空間での音楽演奏】



【ナカメの資源を活かしたお土産開発】



【タウンミーティングの開催】

5 「情報や技術が活きるまち」 暮らしを豊かにする情報発信やデジタル技術活用を展開する



【駅前エリアでの情報発信拠点の設置】



【ローカルメディアの制作】

1 リーディングプロジェクト（LP）

- 未来ビジョンの推進にあたり、以下の取組を短期的に推進するリーディングプロジェクトとします。
- なお、取組内容は、社会経済情勢や地域の変化、人々のニーズの変化を踏まえて適宜柔軟に見直します。

まちづくりの目標1 ウォーカブルネットワーク

取組1 目黒川沿いを中心とした歩行環境向上の推進

社会実験等を行いながら、歩行者優先道路化や沿道店舗のセットバックによるオープンスペースの確保、ベンチの設置、みどりの更新・充実、既存建物の外観を活かしたリノベーションなど、エリア内の歩行環境向上を推進します。

取組2 目黒川沿いやみどりの散歩道を楽しくまち歩きできる環境の整備

ナカメと隣接する池尻大橋・代官山・祐天寺など周辺エリアやみどりの散歩道の回遊を促進するため、案内板の設置や改修、舗装や照明、ベンチ等の改修などを進めていきます。

取組3 GSUC構想のフラッグシップ拠点への回遊路整備をきっかけとした地域連携によるまちづくりの推進

施設利用者が目黒区側へ有効に接続できる動線の確保や、目黒区側の地域住民が恵比寿駅へ円滑に移動できる通路の整備などのほか、ナカメの新産業拠点として国際交流や産業創造等を促進していきます。

まちづくりの目標2 まちなか拠点

取組4 交通結節点としての駅とまちとの連携強化

中目黒駅や駅前横断歩道の利用者による混雑の解消や、駅を拠点とする代官山や池尻大橋への回遊性向上への取組を検討・推進していきます。

取組5 質のよいトイレの設置・改修

対象エリア内にある目黒川船入場・中目黒一丁目児童遊園・伊勢脇公園・八幡公園内の便所や、南部橋公衆便所・正覚寺公衆便所について、高齢者や障がいのある人、乳幼児等子ども連れなどすべての人が、安心して気持ちよく利用できるトイレの整備を進めていきます。

取組6 広場や公園の公民連携による整備・更新・利活用

「ナカメをデザインする会議。」のメンバーをはじめとする地域の関係者と連携しながら、広場や公園等において、施設・設備の改修、新たな利便施設(カフェ等)の設置、ベンチの設置など、公民連携による整備・更新・利活用を推進します。

まちづくりの目標3 インクルーシブなまち

取組7 桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実践

桜開花時期の課題解決に向けて、リユースカップ活用の推進や店舗等との連携によるゴミの回収など、サステナブルツーリズムの実践のための取組を推進します。

まちづくりの目標4 クリエイティブなまち

取組8 ナカメの事業者等の交流による新たなビジネスの創出

ナカメにおける事業者やデザイナー、研究者など様々な人の交流を促す拠点形成や情報発信により、協業や商品開発などの新たなビジネスを創出します。

まちづくりの目標5 情報や技術が活きるまち

取組9 ローカルメディアの制作

住む人・働く人・訪れる人など様々な人が、ナカメの魅力を発見・再発見して、まちへの愛着や様々なつながりをもつことができるローカルメディアを制作します。

「まちなかウォーカブル推進事業」等によるまちづくりの推進

ナカメ未来ビジョンに掲げた取組を着実に推進するため、「まちなかウォーカブル推進事業」による都市再生整備計画の策定など、国の制度や事業を有効活用し、事業を推進します。

2 ロードマップ

- 短期的には、リーディングプロジェクトを推進しながらも、中期・長期的には、各まちづくりの目標に掲げた各取組を検討して実施します。

短期 (5年後)

中期 (10年後)

長期 (20年後)

まちづくりの目標1 ウォーカブルネットワーク

LP取組1 目黒川沿いを中心とした歩行環境向上の推進

道路利活用等の社会実験→定期的な実施

利活用の継続

LP取組2 目黒川沿いやみどりの散歩道を楽しくまち歩きできる環境の整備

案内板・ベンチの設置や改修

環境整備

LP取組3 GSUC構想のフラッグシップ拠点への回遊路整備をきっかけとした地域連携によるまちづくりの推進

回遊路及び地域連携策における関係機関との調整・協議

国際交流や産業創造の促進

その他の取組の展開

取組検討～実施

ウォーカブルネットワークの構築に向けた事業・活動の継続

まちづくりの目標2 まちなか拠点

LP取組4 交通結節点としての駅とまちとの連携強化

混雑解消や回遊性向上案の検討・協議

実施

LP取組5 質のよいトイレの設置・改修

トイレ整備の方針検討、改修に向けた設計・整備

順次改修整備

LP取組6 広場や公園の公民連携による整備・更新・利活用

新たな利活用に向けた社会実験 → 定期的な実施

利活用の継続

施設・整備の改修及び利便性施設・ベンチの設置等の検討

実施

その他の取組の展開

取組検討～実施

まちなか拠点の形成に向けた事業・活動の継続

短期 (5年後)

中期 (10年後)

長期 (20年後)

まちづくりの目標3 インクルーシブなまち

LP取組7 桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実践

リユースカップの活用や店舗連携によるゴミの回収などの試行

仕組みの構築

その他の取組の展開

取組検討～実施

インクルーシブなまちの実現に向けた事業・活動の継続

まちづくりの目標4 クリエイティブなまち

LP取組8 ナカメの事業者等の交流による新たなビジネスの創出

協業や商品開発などに向けた交流の場・機会の創出→実践

協業や商品開発の継続

協業や商品開発の促進のための目黒川船入場等の環境整備

新たな拠点の形成

その他の取組の展開

取組検討～実施

クリエイティブなまちの実現に向けた事業・活動の継続

まちづくりの目標5 情報や技術が活きるまち

LP取組9 ローカルメディアの制作

ローカルメディアの制作 → 公開

情報発信

その他の取組の展開

取組検討～実施

情報や技術が活きるまちの実現に向けた事業・活動の継続

LP取組 「まちなかウォーカブル推進事業」等によるまちづくりの推進

計画策定

事業の実行

評価～更新

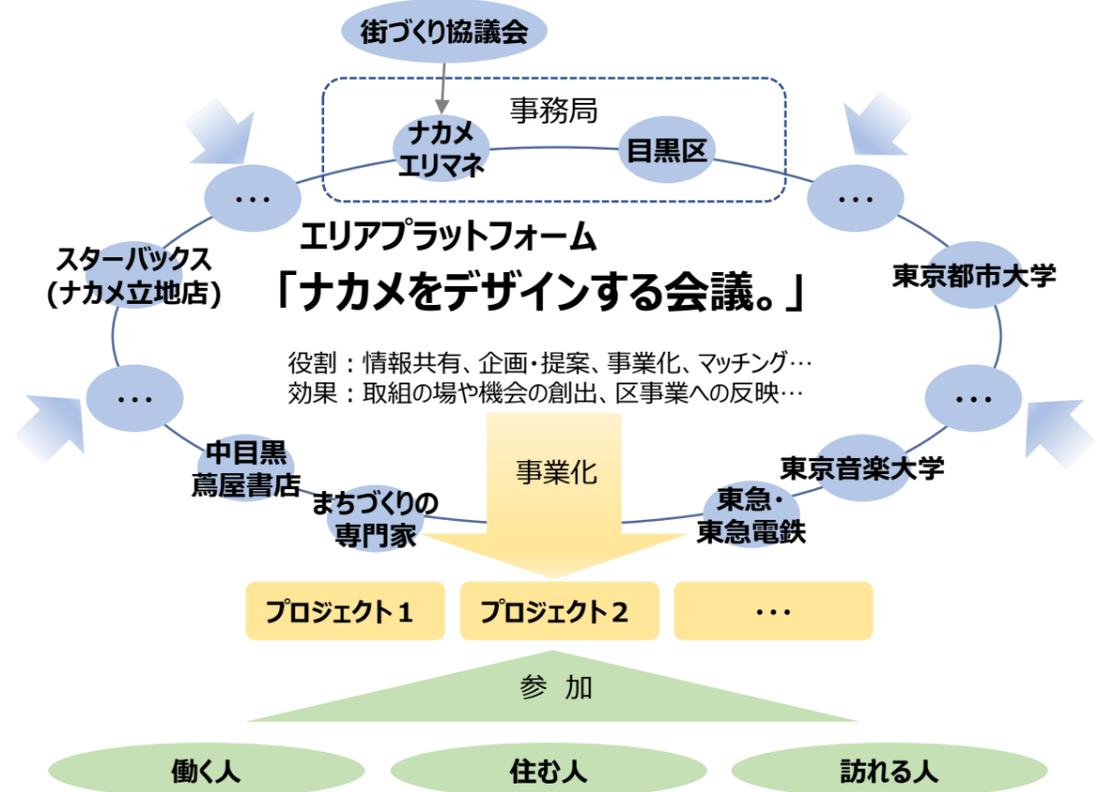
3 体系図

まちづくりの目標	まちづくりの方針	リーディングプロジェクト
ウォークブルネットワーク	方針1 歩行者ファーストのゆとりある環境の創出 方針2 歩行空間の魅力向上 方針3 憩い・くつろげる環境の確保 方針4 周辺エリアとのつながりの強化	・ 目黒川沿いを中心とした歩行環境向上の推進 ・ 目黒川沿いやみどりの散歩道を楽しむまち歩きできる環境の整備 ・ GSUC構想のフラッグシップ拠点への回遊路整備をきっかけとした地域連携によるまちづくりの推進
まちなか拠点	方針1 駅周辺での滞留・回遊を生み出す場の創出 方針2 魅力あふれる水辺の整備と利活用 方針3 民間のオープンスペース等の憩いや交流の場としての利活用 方針4 公園の新たな憩い・交流・回遊を生み出す場としての充実 方針5 個性的な新産業を創出する拠点の形成	・ 交通結節点としての駅とまちとの連携強化 ・ 質のよいトイレの設置・改修 ・ 広場や公園の公民連携による整備・更新・利活用
インクルーシブなまち	方針1 まちなかの身近なみどりの保全と充実 方針2 桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実現 方針3 落ち着いたある景観や環境の保全 方針4 災害時の対策・受入態勢の強化 方針5 ナカメで暮らす人々に優しく安心して暮らせる環境の充実 方針6 多様な人々が安心して楽しく過ごせる環境の充実	・ 桜開花時期におけるサステナブルツーリズムの実践
クリエイティブなまち	方針1 店舗・施設を集積・定着の誘導 方針2 ナカメの資源を活かした商品・サービス開発の促進 方針3 まちなかで文化・芸術の発信 方針4 文化や芸術を学び・体験できる場の創出 方針5 世代を超えて多様な人々が出会い・つながる場や機会の創出 方針6 個性的な新産業や多様な働き方・チャレンジできる環境の創出	・ ナカメの事業者等の交流による新たなビジネスの創出
情報や技術が活きるまち	方針1 駅前エリアでの情報発信機能の強化 方針2 まちの魅力発信してつながりを生むメディアづくり 方針3 まちづくり活動にデジタル技術の活用 方針4 まちなかでデジタル技術を実装できる環境づくり	・ ローカルメディアの制作

4 推進体制

- ナカメエリアマネジメントと目黒区が中心となって、エリアプラットフォームである「ナカメをデザインする会議。」を運営し、活動状況の定期的な情報共有と進行管理を行いながら、メンバー間で関連する取組の提案・アイデア出し・企画・マッチングを行い、公民連携によるプロジェクトの事業化、区事業への反映を図ります。
- さらに、推進力の確保・向上を目指し、ナカメエリアマネジメントの体制強化のため、「ナカメをデザインする会議。」の運営を通じて会員・パートナーの加入促進や、都市再生推進法人の指定を目指します。

「ナカメをデザインする会議。」の名称は、これからの中目黒を様々な人と「一緒に考えて、問題を解決する＝デザインする」という会議体の目的を名前としました。末尾に「。」を使うことでキャッチコピーとして強調して、より多くの人に広く認知してもらいたいと考えています。



推進策1 定期的な情報共有と進行管理

ナカメエリアマネジメントと目黒区が中心となって「ナカメ未来ビジョン」の推進に資する活動の定期的な情報共有と進行管理を行います。

推進策2 メンバー間での情報発信・連携

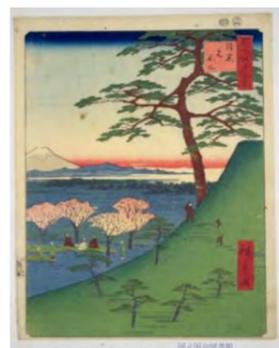
「ナカメをデザインする会議。」メンバー等が、まちづくりに資する取組を「考えたい・アイデアをもらいたい・メンバーを募集したい」時に、SNS・チャット等のデジタルツールも活用しながら発信・連携します。

推進策3 アイデアワークショップ・プロジェクトへの参加機会の創出

推進策2で掲げた、メンバー間での情報発信・連携を通じて、プロジェクト実施に向けて深度化を図る必要がある場合には、協議の場やワークショップを開催しながら、広く参加メンバーを募ります。

参考資料-1. ナカメのこれまでの歩み

明治時代	江戸時代	大正9年	昭和2年	昭和8年	昭和10年	昭和14年	昭和19年	昭和39年	昭和61年	昭和61年	平成6年	平成8年	平成14年	平成21年	平成25年	平成28年	平成29年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年						
中目黒村が幕府の直轄地となる	目黒川沿いで近代工業化が進む	目黒川大洪水	東急東横線開通、玉電中目黒線開通	山手通り開通	目黒銀座商店街発足(中目黒で最初の商店街)	目黒川改修事業の完成	地下鉄日比谷線開通	目黒川の激甚災害対策事業の完了	第1回 中目黒桜まつり開催	目黒川船入場・川の資料館 供用開始	目黒川ふるさとの川モデル事業完成	中目黒GT 開業	ナカメアルカス (中目黒アリーナ・アトラスタワー)開業	中目黒駅周辺地区整備計画 策定	中目黒駅周辺地区街づくり協議会 設置	中目黒高架下 開業	なかめスタイル 策定	中目黒駅周辺地区整備計画 改定	スターバックスリザーブrostary 開業	東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス 開校	目黒川船入場及び旧川の資料館利活用協議会 設置	一般社団法人中目黒駅周辺地区エリアマネジメント 設立	中目黒駅前北地区市街地再開発準備組合 設立	目黒川船入場を目黒区が占用許可取得	目黒区と一般社団法人中目黒駅周辺地区エリアマネジメントが船入場広場の使用契約締結	東京地方裁判所・中目黒分室開設	目黒区と一般社団法人中目黒駅周辺地区エリアマネジメントが旧川の資料館の賃貸借契約締結



【江戸百景】



【戦後の伊勢協通り】
(現在の目黒銀座商店街)



【中目黒夏まつりの始まり：阿波おどり】



【中目黒駅周辺地区街づくり協議会】



【なかめスタイル】



【東京地方裁判所・中目黒分室】



【目黒川の染め物洗い】



【目黒川氾濫によるまちの様子】



【中目黒GT、ナカメアルカス】



【目黒川沿いの桜】



【東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス】



【FUNAIRI-BA】

参考資料－ 2. ナカメを取り巻く社会状況

- 社会経済情勢が大きく変化の中で、持続性の高い社会の実現が求められており、地域においては、公共空間の利活用、空間の再構築、デジタル技術の活用、自然災害の激甚化・頻発化への対策など、時代の潮流に対応したまちづくりを推進することが重要となっています。

SDGs(持続可能な開発目標)

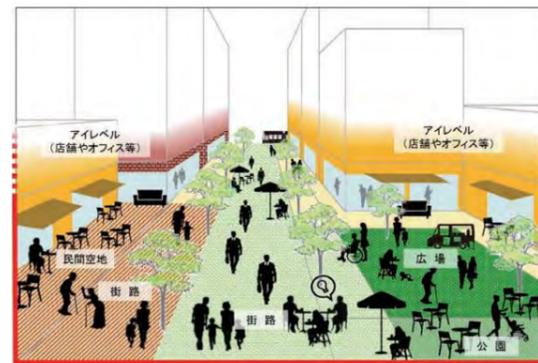
- 平成27(2015)年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。
- 17のゴール・169のターゲットから構成され、「住み続けられるまちづくりを」などが掲げられています。



出典：国際連合広報センター
【SDGsの17のゴール】

ウォーカブルなまちづくり

- 様々な出会いと交流が生み出されることにより、イノベーションの創出やまちの求心力の根源となるような、居心地が良く歩きたくなる「ウォーカブル」な空間が、都市に求められています。
- 国では、まちなかの官民のパブリック空間をエリア一体的に捉え、居心地が良く歩きたくなるまちなかへの修復・改変（空間の再構築、利活用）を一括で推進するための取組を進めています。



出典：国土交通省「ストリートデザインガイドライン-居心地が良く歩きたくなる街路づくりの参考書-(バージョン2.0)」
【「居心地が良く歩きたくなる」まちなか】

まちづくりDX

- あらゆる分野でデジタル技術を活用し、地域や社会の課題を解決するデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進が求められています。
- まちづくりDXでは、インターネットやIoT、AI、デジタルツイン技術等を活用して、まちづくりに関する従来の仕組みを変革していくことが重要となっています。



出典：国土交通省「まちづくりのデジタル・トランスフォーメーション実現ビジョン(ver.1.0)」
【まちづくりDX】

自然災害の激甚化・頻発化

- 近年、全国の豪雨災害が激甚化・頻発化するなど気候変動の影響が顕在化しています。
- さらに、今後は、降雨量の増加や海面上昇、台風の大型化等が発生されることが見込まれます。



出典：東京都建設局ホームページ
【増水時の目黒川と蛇崩川の合流点】

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人々の住まい方や働き方、消費行動は大きく変化しました。それに伴い、都市は、人々のライフスタイルに応じた多様な暮らし方・働き方の選択肢を提供していくことが必要であり、そのためのまちづくりを推進することが重要となっています。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う変化

住まい方	<ul style="list-style-type: none"> ● テレワークの普及等による居住地選択の多様化（自宅周辺での活動増加、都心への移動の減少・都心からの転出）
働き方	<ul style="list-style-type: none"> ● テレワークの普及等によるオフィスの減少やコワーキングスペース・シェアオフィスの増加 ● ノマドワーカーやフリージャーなど、場所に縛られない働き方の浸透 ● 副業規定の変更等を受けたダブルワーカーの増加
消費	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費行動のオンラインシフト ● デリバリーサービスやテイクアウトの増加 ● マイクロツーリズムの定着 ● キャンプやグランピングなどアウトドアへの注目

デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会 中間とりまとめ

<新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会の変化>

- テレワークの急速な普及や自宅周辺での活動時間の増加に伴い、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化
- 都市は、人々のライフスタイルに応じた多様な暮らし方・働き方の選択肢を提供していくことが必要

<目指すべきまちづくりの方向性>

- 市民一人ひとりの多様なニーズに的確に応えるべく、「人間中心・市民目線のまちづくりを深化」させること
- ニーズに対応して機敏かつ柔軟に施策を実施する「機動的なまちづくりを実現」すること
- 地域の資源として存在する官民の既存ストック（都市アセット）を最大限に利活用し、市民のニーズに応じていくことが重要



出典：国土交通省「ニューノーマルに対応した新たな都市政策はいかにあるべきかー都市アセットの最大限の利活用による人間中心・市民目線、機動的なまちづくりへー」
デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会 中間とりまとめ報告書

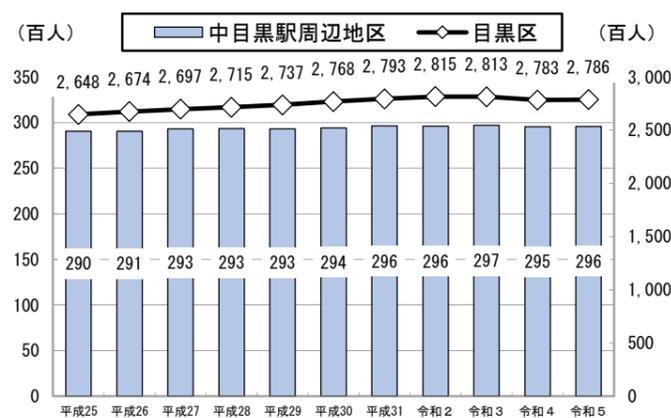
【デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方】

1 人口・来訪者

- 中目黒駅が立地し、交通利便性の高いナカメでは、居住者を見ると、20代後半から30代、40代や単身世帯の割合が区全体と比較して高い傾向にあります。
- 中目黒駅の乗降者数は区内で多く、様々な人が訪れるまちとなっています。一方で、来訪者の滞在時間が長くないと考えられる状況も見受けられます。
- 新たな感性を取り入れながら、自分らしい・自分を高める暮らし方や働き方を求める人々が多いという声もあり、ナカメに関わる人々がまちとしての大きな魅力となっていると考えられます。

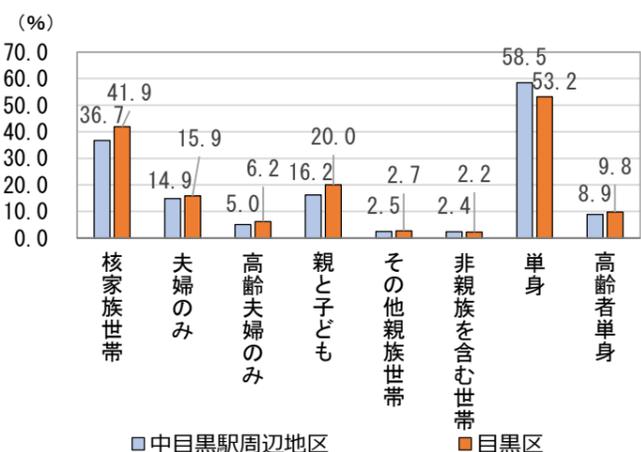
これから

- ナカメが位置する目黒区の北部地区・東部地区は今後も人口が増加する見込みとなっており、ナカメでは、今後も住む人・働く人・訪れる人など多くの人々が交わるまちになると考えられます。
- そのような中で、新たな感性を取り入れながら自分らしいライフスタイルを実現するような人々が住み、集い、行き交うことで、ナカメの魅力をつくるようなまちになることが期待されます。



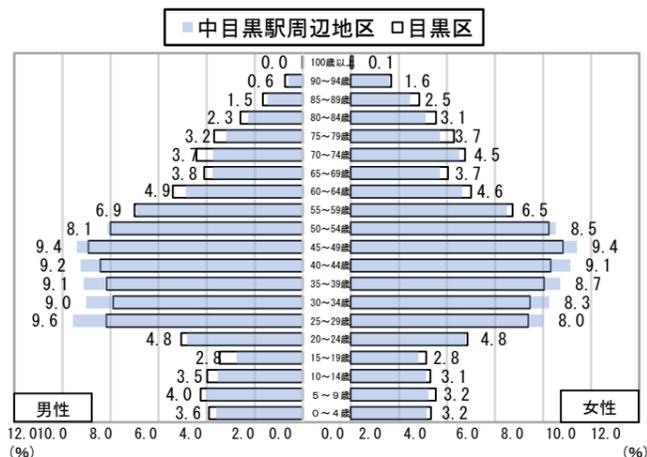
出典：目黒区「町丁別世帯数および人口表」(各年1月1日現在)

中目黒駅周辺地区における人口の推移



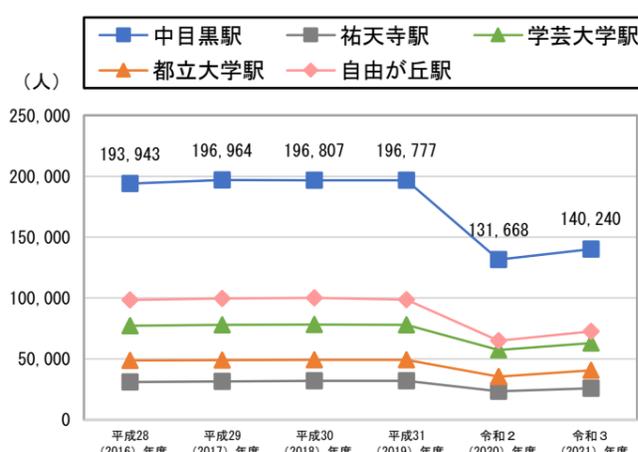
出典：総務省「国勢調査」(令和2(2020)年)

中目黒駅周辺地区における家族類型別世帯数比率



出典：目黒区「年齢別人口表(町丁別)」(令和5(2023)年1月1日現在)

中目黒駅周辺地区における年齢別人口構成



出典：東急電鉄ホームページ

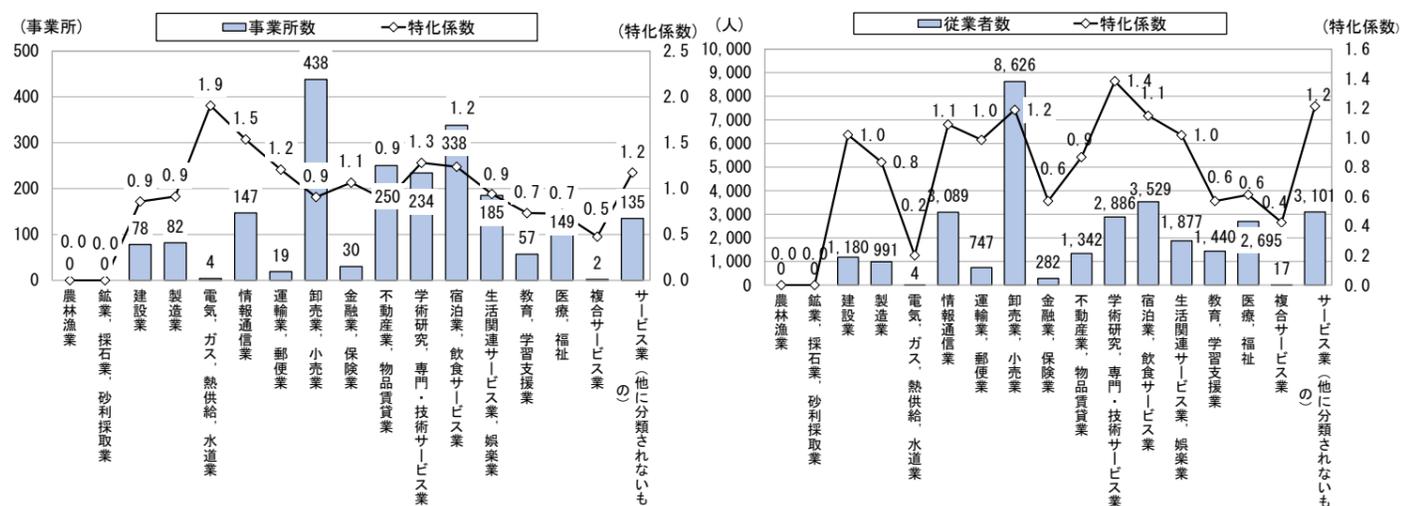
東急東横線駅の乗降人員の推移

2 産業

- ナカメでは、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」の事業所数・従業者数が多くなっています。まちなかには商店街が複数形成されているとともに、山手通りや目黒川沿いなどには、個性のある店舗や先進的な取組を行うコンセプト店舗が立地・集積しています。
- ナカメにはクリエイター等が多く集まっていると言われており、区全体と比較した事業所数・従業者数の特化係数をみると、「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」が高くなっています。一方で、地価の上昇等に伴い店舗等が他地域に転出しているという声もあります。

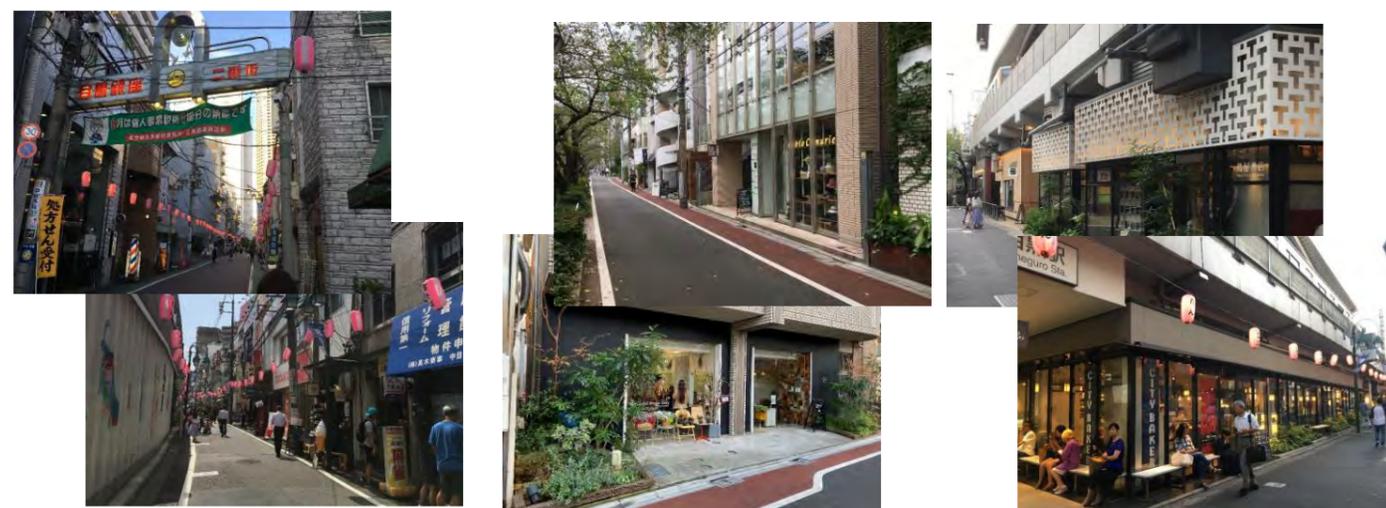
これから

- 商店街や山手通り、目黒川沿いなどに、住む人・働く人・訪れる人にとって魅力的な店舗等が持続的に立地しやすい環境が形成され、ナカメらしい商業・業務機能が集積することが期待されます。
- 新たな流行や感性を柔軟に取り入れたり自由に働いたりする人々が集まり、時代を牽引するナカメらしい新たなビジネスが創出されることが期待されます。



出典：総務省「経済センサス活動調査」(令和3(2021)年)

区全体と比較した中目黒駅周辺地区における事業所数・従業者数の特化係数



【商店街】

【目黒川沿い】

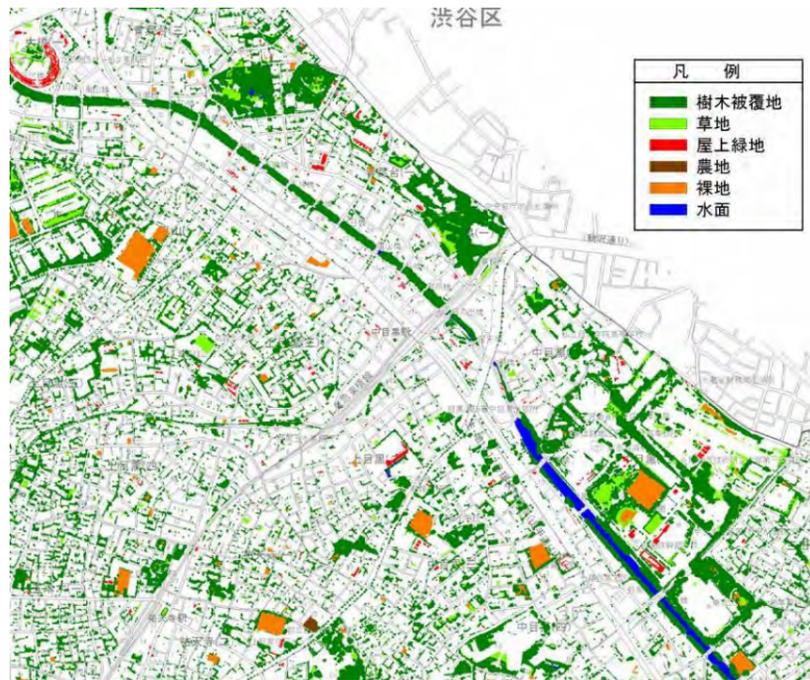
【中目黒高架下】

3 環境・施設立地

- ナカメでは、目黒川と桜が地域を代表する資源となっています。また、中目黒公園、西郷山公園、菅刈公園などまとまったみどりのあるスポットが存在します。
- その一方で、桜の開花時期等における混雑や騒音、ゴミのポイ捨てなどの問題が発生しています。また、目黒川沿いの桜が地域のイメージとして偏って定着しているという声もあります。
- 近年は、東京音楽大学中目黒・代官山キャンパスの開校、東京地方裁判所・中目黒分室の開設など、新たな文化や人の流れを生み出す施設が立地してきました。

これから

- 目黒川や桜を中心として、ナカメの魅力のひとつであるみどり豊かな自然環境を守り、活かすことが期待されます。
- 地域にある魅力的な資源を活かしながら、魅力あるまちなか空間づくりや、人々の回遊を促進する歩行環境づくり、居心地の良いゆるやかなまちなか環境の形成、ナカメカルチャーの育成・創出に取り組みことが望まれます。



【目黒川沿い】



【中目黒公園】

出典：目黒区「目黒区のみどり－2014(平成26)年度みどりの実態調査報告書－」

中目黒駅周辺地区における緑被分布



【東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス】



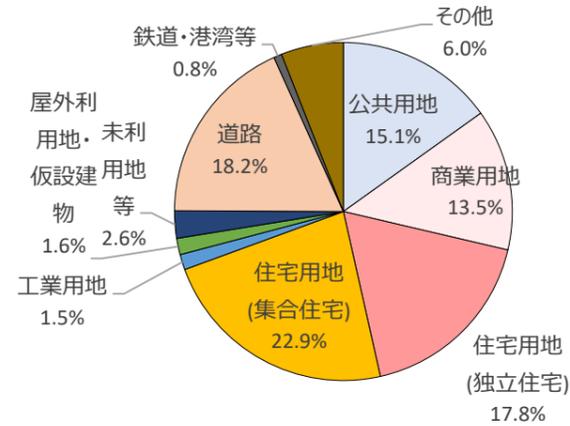
【東京地方裁判所・中目黒分室】

4 土地・建物

- ナカメでは、中目黒駅や山手通り、目黒川沿いを中心に、住商の用途が混在しており、落ち着いた住環境に魅力的な商業・業務機能が集積していることがまちの魅力となっていると考えられます。その一方で、まちなかでの混雑や騒音、ゴミのポイ捨て、置き看板や自転車などのマナーの問題が発生しています。
- 建物の状況を見ると、昭和55年以前に建築された建物の割合が高い場所が存在しています。

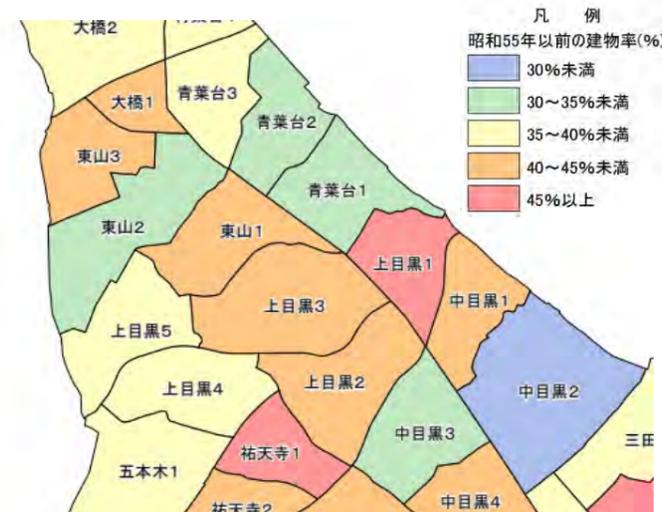
これから

- 住商の用途が混在することをナカメのまちの魅力・活力として活かし、ミクスユースによるまちづくり、人々の回遊を促進する歩行環境づくりを進めることが期待されます。
- 中目黒駅前のなどの拠点周辺を中心として、老朽化した建物の更新を図っていく必要があります。



出典：東京都「令和3年度区部土地利用現況調査」をもとに作成

中目黒駅周辺地区における土地利用面積の割合



出典：目黒区「目黒区の土地利用2017」

昭和55年以前に建築された建物の割合



区分	特化・混合タイプ	住居系	商業系	工業系
①	住宅特化1	97%～	～10%	～3%
②	住宅特化2	80～97%	～20%	～10%
③	住商軽度混合	65～80%	10～35%	～10%
④	住商重度混合	20～65%	25～80%	～40%
⑤	住工軽度混合	65～90%	～10%	10～35%
⑥	住工重度混合	20～65%	～40%	25～80%
⑦	住商工軽度混合	65～80%	10～25%	10～25%
⑧	住商工重度混合	20～65%	10～40%	10～40%
⑨	商業特化	～20%	40%～	～40%
⑩	工業特化	～20%	～60%	40%～

出典：東京都「令和3年度区部土地利用現況調査」をもとに作成

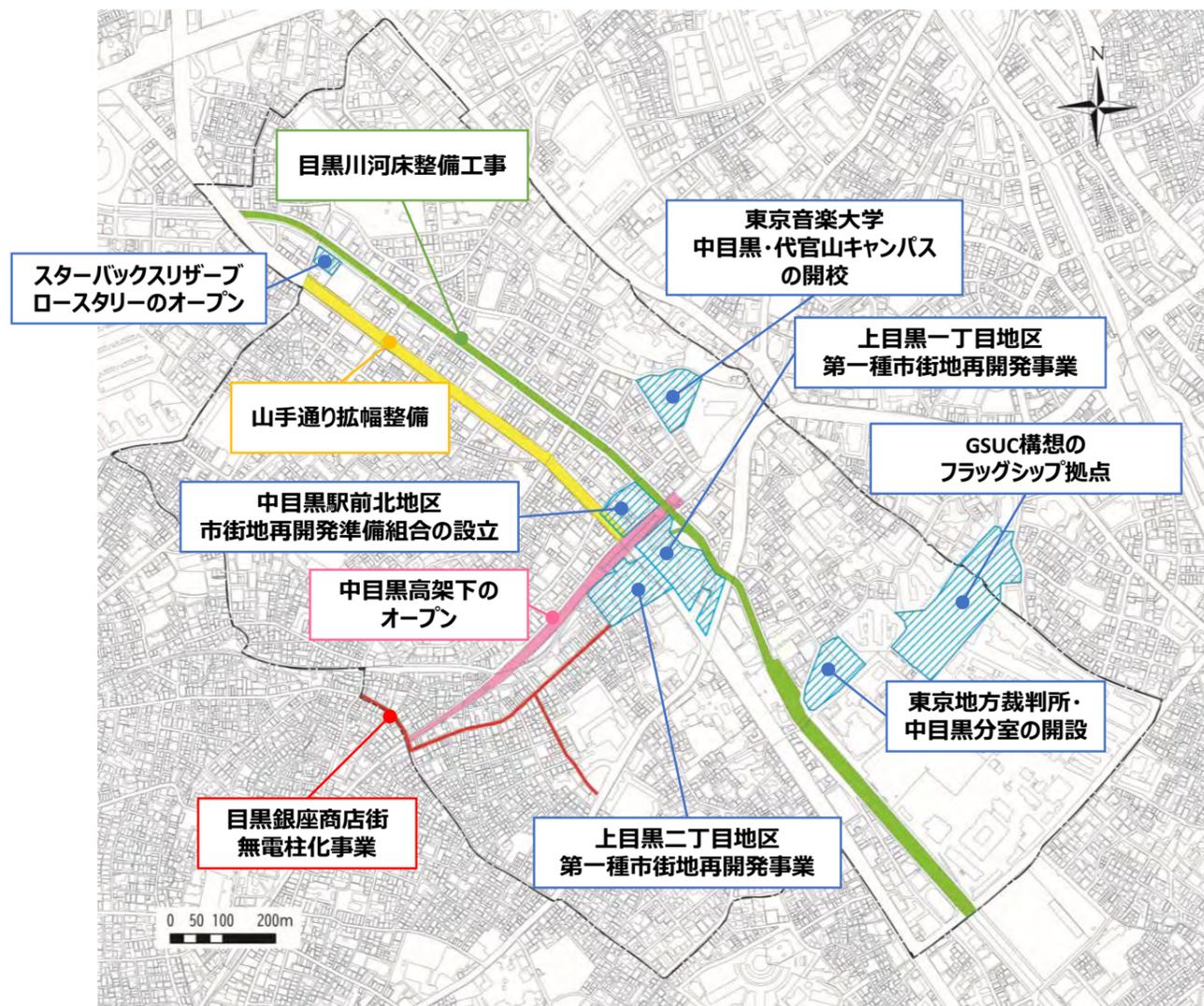
中目黒駅周辺地区における用途特化・混合状況

5 都市基盤

- 上目黒一丁目、上目黒二丁目における市街地再開発事業では、駅前広場や交通広場機能の整備、緑道の再整備などが実施されました。また、山手通りでは拡幅整備が実施されました。中目黒駅前北地区(目黒区上目黒一丁目20番、21番)では、令和2(2020)年12月に「中目黒駅前北地区市街地再開発準備組合」が設立されています。
- まちなかでは、中目黒駅前での混雑や、滞留・休憩スペースの不足、狭い道路での通過交通などが生じています。

これから

- 市街地再開発事業などによる土地の有効利用や建物の更新を契機として、魅力あるまちなか空間づくりや、駅前を起点とした回遊性の向上、災害時対応を図るためのまちなか空間づくりや、安心なまちの基盤づくりに取り組むことが必要です。



【中目黒駅周辺地区の開発・整備図】

6 まちづくり活動・コミュニティ

- 街づくり協議会が中心となってまちづくり活動を進め、平成29(2017)年12月には、まちへの愛着や誇りをもち自ら行動することを「なかめスタイル」と位置付け、関連する活動を展開しています。令和2(2020)年10月には、なかめスタイルに基づく活動の実行組織として、「ナカメエリアマネジメント」が設立され、公共空間の利活用などを推進しています。
- まちづくり活動の推進にあたっては、担い手やまちづくりへ参加できる場・人々とつながる場の不足、情報発信の場・手段の不足、拡散スピードが遅いなどの問題が生じています。

これから

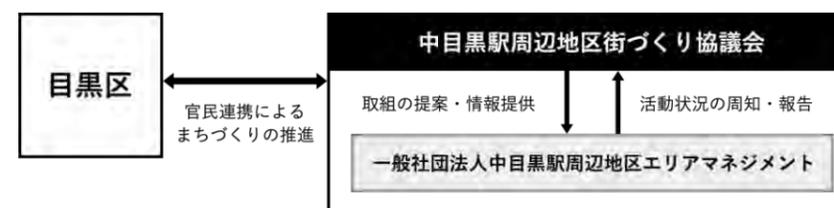
- 町会・自治会、住区住民会議、商店会によるまちづくり活動を持続的に推進するとともに、ナカメエリアマネジメントを中心としながら、公民連携によるまちづくりを推進し、ナカメに誇り・愛着をもつ多様な人々がつながるコミュニティづくり、次世代を担う子どもの地域での育み、高齢者の生きがい・癒し等の創出、まちにつながる情報発信・拡散力の強化に取り組むことが望まれます。



【中目黒駅周辺地区街づくり協議会】



【なかめスタイル】



【ナカメエリアマネジメント】



【公共空間の利活用】



コラム. 目黒川道プロジェクト（目黒川沿いの歩行者優先道路化に関する実証実験）

- ナカメの課題である歩道の狭さや混雑、滞留空間不足の解決策の検討に向けて、目黒川沿いの区道を対象に歩行者優先道路化に関する実証実験「目黒川道プロジェクト」を実施しました。
- 実証実験では目黒川沿いで過ごす人々にとって心地よい環境が形成されました。

実施概要

実施場所
目黒川沿いの区道の一部
(合流点遊び場付近（日の出橋～宝来橋間）)

実施期間
令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)
各日10:00～16:00

※実証実験中の各種調査も上記日時に実施

実施内容
該当区間を車両通行止めとし、歩行者優先の空間を創出



調査概要

	実証実験の実施前	実証実験実施時
通行者アンケート	<p>調査項目 目黒川沿いの区道に対する印象・意見、ナカメの今後のまちづくり など</p> <p>調査の対象 目黒川沿いの区道の通行者</p> <p>日時 令和4(2022)年5月28日(土)～29日(日)</p>	<p>調査項目 目黒川沿いの区道の通行状況、歩行者優先道路化に関する感想・意見 など</p> <p>調査の対象 実証実験対象区間の通行者</p> <p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)</p>
アクティビティ調査		<p>調査内容 対象区間で人々がどのようなアクティビティを行っているかを把握</p> <p>調査の対象 実証実験対象区間の滞在者</p> <p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日)</p>
交通量調査	<p>調査内容 歩行者優先道路化の実施前と実施時の交通量の変化を把握</p> <p>調査対象 合流点遊び場付近（日の出橋～宝来橋間） 通行者・通行車両</p> <p>日時 令和4(2022)年9月3日(土)～4日(日) 各日10:00～16:00</p>	<p>日時 令和4(2022)年10月1日(土)～2日(日) 各日10:00～16:00</p>

目黒川道プロジェクト実施時の様子

- 車両通行止めにして歩行者優先の空間で、テーブル・ベンチを設置するとともに、芝生マットエリア内にはハンモックやビーズクッション、子ども用の椅子、絵本、積み木などを設置し、自由に楽しめる空間を演出しました。



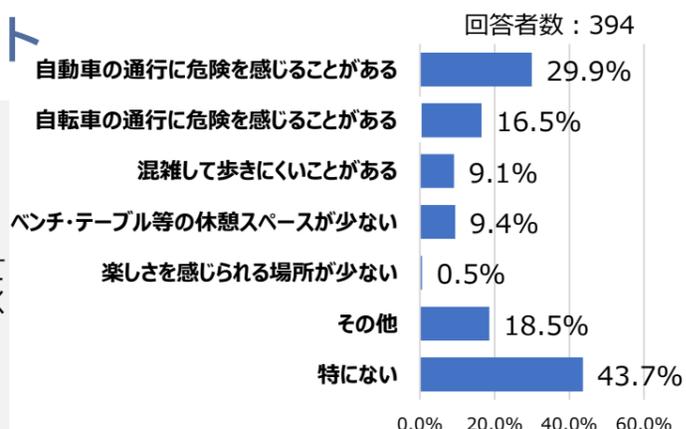
コラム. 目黒川道プロジェクト（目黒川沿いの歩行者優先道路化に関する実証実験）

～歩行者優先道路化実施前の意向等～

実証実験実施前通行者アンケート

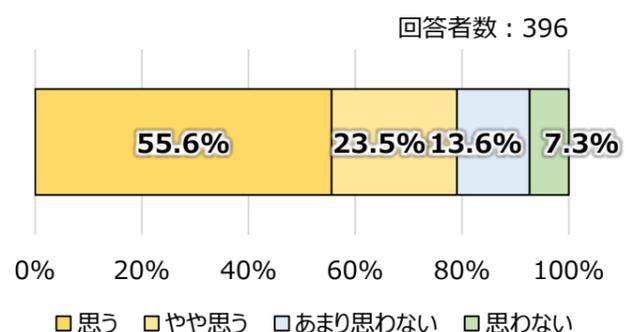
目黒川沿いの区道では自動車や自転車の通行に危険を感じている傾向がある

- 目黒川沿いの区道を歩く際に不安・不満を感じたことについては、「自動車・自転車の通行に危険を感じることがある」が高くなっていました。



歩行者優先化を良いと思う意見は多い

- 歩行者優先化を良いと思うかについては、「思う、やや思う」という回答が7割を超えました。
- 範囲は「目黒川沿いの区道全体」、日時は「時間や曜日を限定」、あわせて実施・充実してほしいことは「ベンチ・テーブル等の休憩スペースの設置」を望む声が多い傾向にありました。



～歩行者優先道路化によるまちの変化～

交通量調査

歩行者交通量が通常時と比べて増加した

- 実施前より実施時の方が、日の出橋周辺・合流点遊び場付近の歩行者交通量が増加しました。

渋滞など交通への影響は見られなかった

- 周囲の道路で渋滞やトラブルなどは生じませんでした。

アクティビティ調査

多様な居場所の創出につながっていた

- 実証実験実施時での人々の行動について、「任意行動」と「社会行動」に着目して集計・分析した結果、居心地の良い良質な空間で起こるとされる「社会活動」が全体の約7割を占めました。
- 13時～15時の間で「飲食(複数)」、「休憩・眺める・会話(複数)」、「芝生で遊ぶ」、「子供を見守る」などが多く、地域の人々の多様な居場所の創出につながっていました。

		発生数
任意活動	飲食(個人)	21
	休憩・眺める(個人)	78
	寝そべる(芝生)	53
	寝そべる(ハンモック)	211
場所や時間が許す時に 行われる活動	読書・仕事	9
	スマホ操作	97
	合計	469 (31.2%)
	社会活動	飲食(複数)
他者の存在を前提とした活動	休憩・眺める・会話(複数)	281
	芝生で遊ぶ	315
	子供を見守る	253
	合計	1,033 (68.8%)
全合計		1,502

【歩行者優先道路化区間でのアクティビティの発生状況】

～歩行者優先道路化の評価と今後の意向～

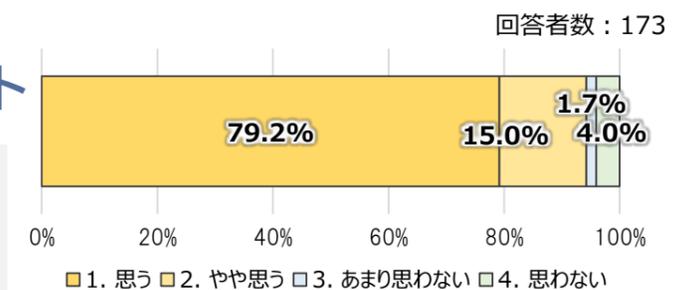
実証実験実施時通行者アンケート

居心地の良い環境形成につながる評価が得られた

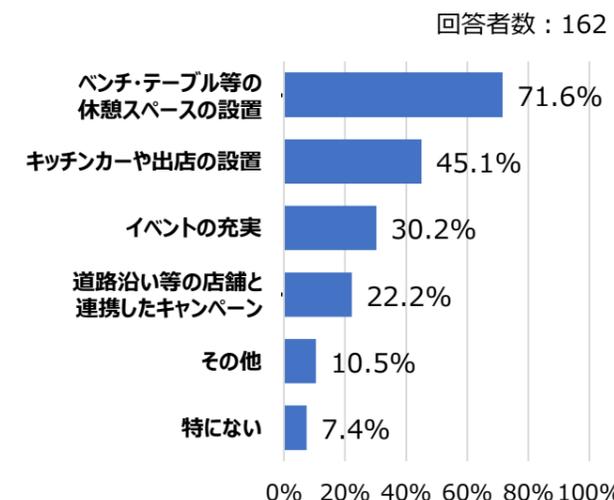
- 歩行者優先道路化に対する評価は、歩きやすさ、休憩しやすさ、居心地よさについて「思う、やや思う」と回答した人はいずれも8割以上でした。
- 歩行者優先道路化した場合に、目黒川沿いでのごし方は変化すると思うかを尋ねたところ、「もっと長く滞在したいと思う」、「今まで以上に頻りに目黒川沿いを訪れたいと思う」が高くなりました。

今後も歩行者優先道路化の実施を求める意見が得られた

- 今後も行うと良いと思うか尋ねたところ、「思う、やや思う」が9割以上を占めており、実施前のアンケートよりも高い結果となりました。
- 範囲は「目黒川沿いの区道全体」、日時は「時間や曜日を限定」、あわせて実施・充実してほしいことは「ベンチ・テーブル等の休憩スペースの設置」や「キッチンカーや出店の設置」を望む声が多い傾向にありました。



【目黒川沿いの区道で歩行者優先道路化を行うと良いと思うか】



【歩行者優先道路化とあわせて目黒川沿いで実施・充実してほしいこと】

まとめ

【目黒川沿いの区道に対する人々のニーズ】

- ✓ ゆとりのある歩行環境や滞留・交流空間の確保が求められている
- ✓ 目黒川沿いの区道の歩行者優先道路化を良いと思う意見は多い
- ✓ 目黒川沿いの区道全体や駅前周辺で、落ち着きやゆとりを感じながら交流や自然を楽しめる場づくり・活動づくりが有効
- ✓ 近隣住民への事前告知の徹底等の改善が必要である

【目黒川沿いの区道の利活用に関する可能性・効果】

- ✓ 歩行者優先道路化による渋滞など自動車等の交通への影響は見られなかった
- ✓ 荷捌き車などへの対応の改善が必要である
- ✓ 歩行者優先道路化が歩きやすさの向上やまちの魅力となる居場所づくりにつながる

コラム. 東京都市大学による未来ビジョン策定に向けた提案

- 未来ビジョンの策定にあたっては、東京都市大学都市プランニング研究室が参加し、目黒川道プロジェクトの調査を支援しました。
- そして調査を通じて把握したナカメの強み・弱みなどをもとに、「Serendipity – 幸運な出会いのある街 –」を未来ビジョンをコンセプトとして、その実現に向けた施策を提案しました。

提案の流れ

- 歩行者優先道路化の実施前及び実施時における調査の企画・準備・実施・集計・分析を担い、調査結果をもとに未来ビジョンの提案を行いました。

歩行者優先道路化実施前

歩行者優先道路化実施前の
通行者アンケート

歩行者優先道路化実施前の
交通量調査



歩行者優先道路化実施時

歩行者優先道路化実施時の
通行者アンケート

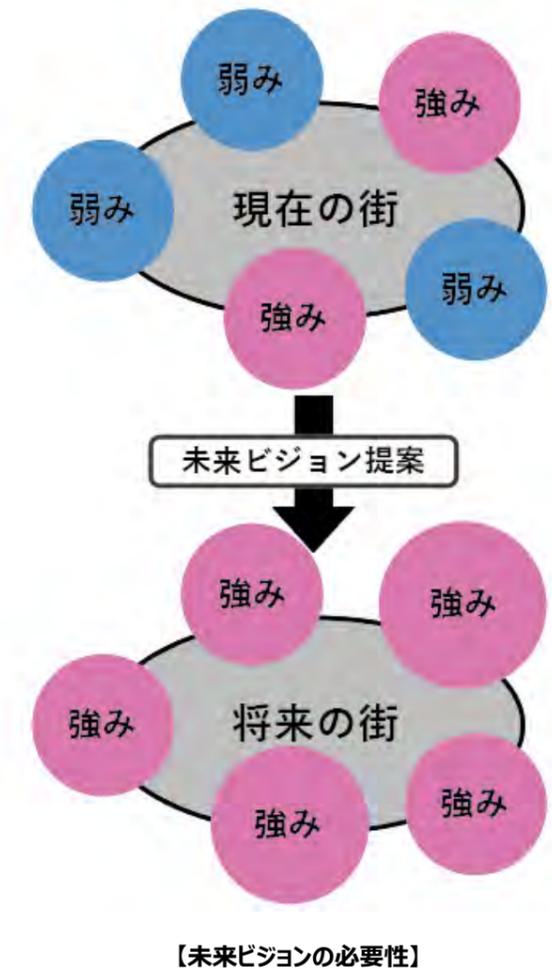
歩行者優先道路化実施時の
交通量調査

アクティビティ調査

未来ビジョンの提案

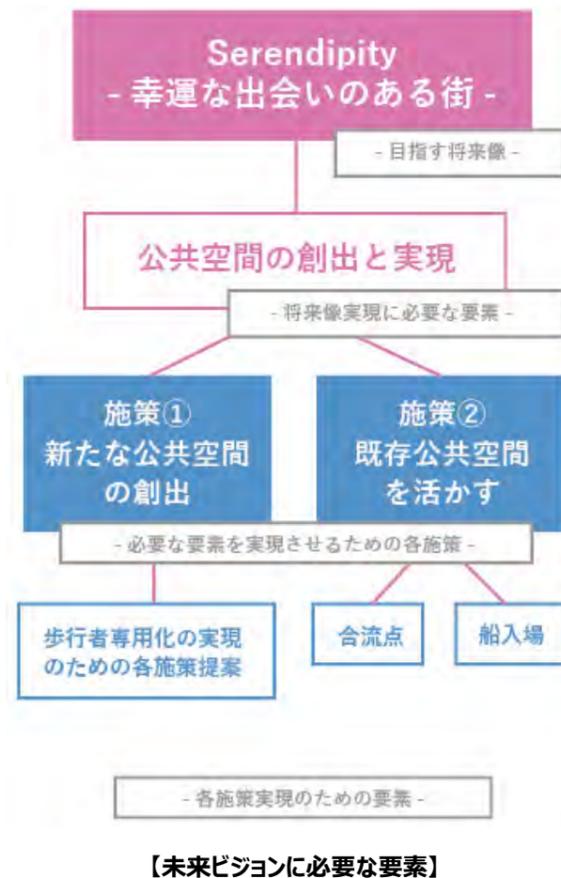
中目黒の未来ビジョン提案

- 未来ビジョンを提案する上で、現在の中目黒の強みと弱みに焦点を当て、弱みは強みへと変化させ、強みは更なる強みへと変化させることを未来ビジョンの方向性として考えました。
- 中目黒の強みは豊富な地域資源であると考え、「人」「店舗」「自然」の3つに分類しました。中目黒に古くからお住まいの人や、中目黒を拠点にクリエイティブな分野で活躍される人のどちらも中目黒に愛着を持っていると感じました。そして、街にはそんな人々の受け皿となる地元感あふれる店舗や感度の高い店舗など様々な種類の店舗が混在しています。さらに、中目黒の代名詞ともいえる目黒川や桜などの自然があります。この3つの地域資源が中目黒特有の強みであると考えられます。
- 弱みについては、目黒川沿い区道の既存課題である「滞留空間の不足」が挙げられます。それに加え、「自然」以外の地域資源と来街者や趣味嗜好の異なる人々がつながる場が限られている点も挙げられます。地域資源が表出する場である時間消費空間が不足していることから、「人」「店舗」とつながりを持つ機会が限られています。これは強みと関われないという弱みになります。
- 中目黒の豊富な地域資源が強みである一方で、地域資源とつながる場が限られていることを改善し、弱みを強みに変えるため、中目黒に時間消費空間を創出する必要があります。
- そこで、「Serendipity – 幸運な出会いのある街 –」を未来ビジョンのコンセプトとして提案します。時間消費空間を新たに創出し、現状では偶発的に出会うことの難しい地域資源を都市に表出させます。これにより、街の魅力を最大限に引き出すことを目指します。



Serendipity
- 幸運な出会いのある街 -

- 未来ビジョン実現には、平常時の中目黒でも Serendipity を喚起させるために、不足している時間消費空間を新たにつくり出す「公共空間の創出」とすでに中目黒にあるものの活用しきれていない公共空間をよりよくアップデートさせる「公共空間の充実」が必要な要素であると考えます。
- 「公共空間の創出」では、実証実験と同様に目黒川沿いの区道を対象として歩行者優先化を行います。
- 「公共空間の充実」では、中目黒の既存の公共空間である『合流点遊び場』『目黒川船入場』を対象とします。公共空間の特性を活かしながら、時間消費できる空間を創出することで、既存の公共空間で Serendipity を喚起させることを狙いとします。



施策2-1 『人・自然・店舗』地域資源の合流点 ～中目黒をマルっと感じられる場～

「広場が分断され、うまく活用されていない」「目黒川との親水性が低い」という課題を解決し、住民や来街者、ワーカーによって多様な利用が生まれ、出会いの機会を広げることを目的に、2つの広場をつなげるウッドデッキと、合流点の区道に面する部分の滞留階段の設置を提案します。



【ウッドデッキ・滞留階段の設置】



施策1 『歩く・食べる・見つける』区道で生まれる出会い ～地域資源とつながる場～

人々の出会いの幅を広げ、出会いの機会を増やす場とすることで、Serendipity を喚起することを目的に、目黒川沿い区道を歩行者優先化し、区道に面する店舗のオープンテラス設置や路上販売、ベンチ・テーブルなどのガーデンファニチャーを設置することを提案します。



【オープンテラス設置や路上販売の誘致】



【ベンチやテーブル、芝生マット等の設置】



施策2-2 「船入場行ってみない？」を何度でも ～中目黒の気になる賑わいの場～

多種多様なイベントを催すことで「めぐり会い」の機会を創出することを目的に、イベントがない時でも滞留空間として利用可能な階段上のイベントスペースを整備するとともに、現在でも行われているイベントを更に活性化させることをご提案します。



【イベントの活性化】



用語	解説
ア行	
インクルーシブ	障がいの有無や国籍、年齢、性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくこと。
インスタレーション	展示する空間全体で構成するアート。
エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持し向上させるための住民・事業主・地権者等による主体的な取組のこと。
オープンイノベーション	新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ること。
カ行	
ガーデンファニチャー	庭園用のテーブルや椅子のこと。
緊急輸送道路	震災時に避難や救急・消火活動、緊急物資輸送の大動脈となる幹線道路のこと。
グランピング	glamorous (グラマラス) + camping (キャンピング) からの造語であり、山野に設置された豪華なテントやロッジに宿泊して、ホテル並みの快適なサービスを受けながら、自然との触れ合いを楽しむこと。
交通結節点	バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。
コミュニティベースドツーリズム	地域の歴史や文化、産業、暮らしなどを資源として、地域のコミュニティが主体となって開発するツーリズムのこと。
コワーキングスペース	様々な年齢、職種、所属の人が、机・椅子・ネットワーク設備などの実務環境を共有 (Co) しながら仕事 (Working) を行う場所。

用語	解説
サ行	
サステナブルツーリズム	訪問客、旅行業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する持続可能な観光のこと。
シェアオフィス	サテライトオフィスの一形態。複数の企業がフリーアドレス形式で利用するオフィスのこと。
シェアモビリティ	車や自転車、電動キックボードなどの移動手段を共同で利用すること。
スタートアップ	新規に事業の立ち上げや会社の設立を行うこと。
タ行	
タウンミーティング	住民等の参加する対話型の集会のこと。
ダブルワーカー	定職をもちながら、夜間や休日などに他の仕事をして収入を得ている人。
デジタルツイン	インターネットに接続した機器などを活用して現実空間の情報を取得し、サイバー空間内に現実空間の環境を再現すること。
都市再生推進法人	都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりを担う法人として、区市町村が指定する行政の補完的機能を担う団体。
都市再生整備計画	都市再生特別措置法に基づき、市区町村によって作成される計画で、地域の特性を踏まえ、まちづくりの目標と目標を実現するために実施する事業等を記載したもの。

用語	解説
ナ行	
中目黒駅周辺地区整備計画	「中目黒駅周辺地区整備構想」で示した『街づくりの方針』の実現を目指し、それらの進め方等を設定した「中目黒駅周辺地区整備方針」を踏まえ、必要となる整備メニューや具体的な事業内容、事業者及びスケジュールを定めるもの。
ニューノーマル	新たな常態・常識、新常态。社会に大きな変化が起こり、新たな常態・常識が定着すること。
ノマドワーカー	「ノマド」(nomad)とは、英語で“遊牧民”を指す言葉。定住地を持たない遊牧民のように、オフィスに縛られることなく、働く場所を自由に選択しながら仕事をする働き方のこと。
ハ行	
パーゴラ	軒先・庭などに作る格子状の日陰棚のこと。
ビッグデータ	ボリュームが膨大でかつ構造が複雑であるが、そのデータ間の関係性などを分析することで新たな価値を生み出す可能性のあるデータ群のこと。例えば、ソーシャルメディア内のテキストデータ・画像、携帯電話・スマートフォンが発信する位置情報、時々刻々と生成されるセンサデータなどがある。
ブリージャー	Business (ビジネス) とLeisure (レジャー) を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。
歩行者優先道路化	歩行者天国や歩行者専用化によって、車の通過等を気にすることなく、居心地がよく安心して歩きやすい道路にすること。
マ行	
マイクロツーリズム	近隣地域内での観光のこと。
ミクストユース	複合的な土地利用のこと。

用語	解説
みどりの散歩道	区内に設定された散歩道のこと。
目黒区基本計画	子育てや教育、福祉、まちづくり等、目黒区の政策に係るすべての分野を含む中長期の総合計画。区政において今後10年間に取り組むべき課題と施策の基本的な方向を、総合的かつ体系的に示し、基本構想に掲げるまちの将来像「さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる」を実現することを目的としている。
目黒区都市計画マスタープラン	都市計画法に基づき、市区町村が都市計画に関する基本的な方針を定めたもの。
モビリティ	交通に関する技術、サービス等により提供される、人、モノの移動手段のこと。
ラ行	
リノベーション	増築や改築、建物の用途変更など、価値を高めるための改造・機能の付加を行うこと。
ローカルメディア	地域の情報を発信している情報媒体のこと。
アルファベット	
AI	人工知能のこと。
DX	デジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation) の略で、情報通信技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
IoT	Internet of Thingsの略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。
Serendipity	素敵な偶然に出会うことや予想外のことを発見すること。